

考古展

第4回

小さな展覧会

—昭和59年度発掘調査の成果から—

1985・8



家形埴輪（燈籠寺遺跡）



青磁碗（隼上り遺跡）

昭和59年度の発掘調査概要

昭和59年度の発掘調査は、道路建設・河川改修や橋のつけかえ工事に伴うものが比較的多かったようです。道路建設に伴うものとしては、奥谷西遺跡・薬王寺古墳群・北金岐遺跡・篠窯跡群・千代川遺跡・長岡京跡左京第115次・隼上り遺跡・隼上り古墳群などがあります。いずれもこの冊子に紹介していますように、貴重な成果を得ました。特に、小金岐古墳は、横穴式石室の玄室にT字形の石を置いて部屋を3つに分ける珍しいものでした。

このほか、府立学校の増改築に伴うものとして、平安京跡や燈籠寺遺跡の調査を実施しました。また、宮福線鉄道建設工事に伴って実施した石本遺跡では弥生時代から古墳時代の大集落跡がみつき、この地域を歴史的に解明する一資料を得ることができました。

このように、昨年度はこれまで以上に大きな成果が得られました。まだ、ほかにも調査を行った遺跡は多いのですが、今後も発掘調査によって京都府下の歴史や文化などがより一層明らかになっていくと思われます。



第3回小さな展覧会

昭和59年度発掘調査一覧表

(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター調査

番号	遺跡名称	種別	所在地	調査担当者	調査期間	概要	出土遺物
1	宮津城跡	城跡	宮津市柳縄手	竹原 一彦	60. 2. 6～ 60. 3. 30	解説参照	解説参照
2	田辺城跡	城跡	舞鶴市南田辺大内口下	山下 正	59. 10. 11～ 59. 11. 7	溝	漆器・はし
3	志高遺跡	集落跡	舞鶴市志高	岩松 保	59. 10. 5～ 60. 3. 27	解説参照	解説参照
4	波江古墳群	古墳	福知山市上天津波江	辻本 和美 竹原 一彦	59. 10. 29～ 60. 3. 18	解説参照	解説参照
5	石本遺跡	集落跡	福知山市牧段・岩田	辻本 和美 竹原 一彦	59. 5. 8～ 59. 9. 30	解説参照	解説参照
6	多保市城跡	城館跡	福知山市多保市打越	伊野 近富 山下 正	59. 5. 7～ 60. 3. 30	中世墳墓群	須恵器・土師器
7	奥谷西遺跡	集落跡	福知山市大内奥谷西	藤原 敏見 岩松 保	59. 5. 7～ 60. 3. 30	解説参照	解説参照
8	薬王寺古墳群・古墓	古墳・古墓	福知山市多保市薬王寺	伊野 近富 山下 正	59. 10. 22～ 59. 10. 29	解説参照	解説参照
9	和田賀遺跡ほか	散布地	福知山市長田和田賀ほか	三好 博喜	59. 11. 8～ 60. 3. 8	顕著な遺構なし	土師器・須恵器
10	青野遺跡	集落跡	綾部市青野吉美前	森下 衛 三好 博喜	60. 3. 7～ 60. 3. 30	竪穴式住居・溝	弥生土器・土師器
11	味方遺跡	散布地	綾部市味方町中ノ坪	辻本 和美	59. 12. 13～ 60. 3. 30	解説参照	解説参照
12	小金岐古墳群	古墳	亀岡市大井町小金岐	田代 弘 村尾 政人	59. 12. 13～ 60. 3. 27	解説参照	解説参照
13	千代川遺跡第7次	集落跡	亀岡市千代川町千原	森下 衛	59. 6. 1～ 59. 7. 5	解説参照	解説参照
14	千代川遺跡第8次	集落跡	亀岡市大井町小金岐北浦	村尾 政人	59. 7. 26～ 59. 8. 30	素掘り溝・柱穴	須恵器・土師器
15	千代川遺跡第9次	官衙跡	亀岡市千代川町北ノ庄	森下 衛 村尾 政人	59. 8. 27～ 59. 12. 12	解説参照	解説参照
16	北金岐遺跡	集落跡	亀岡市大井町北金岐	田代 弘	59. 11. 5～ 59. 12. 20	解説参照	解説参照
17	篠窯跡群	窯跡	亀岡市篠町篠ほか	水谷 寿克 竹井 治雄 岡崎 研一	59. 5. 17～ 60. 3. 27	解説参照	解説参照
18	上中遺跡	散布地	北桑田郡京北町赤石ほか	増田 孝彦	59. 8. 1～ 59. 9. 25	溝	土師器・石器
19	長岡京跡左京第115次	都城跡	長岡京市神足大張ほか	長谷川 達 三好 博喜	59. 9. 21～ 59. 10. 23	解説参照	解説参照
20	長岡京跡左京第118次	都城跡	向日市森本町小柳ほか	長谷川 達 石尾 政信	59. 10. 18～ 60. 2. 14	解説参照	解説参照
21	長岡京跡左京第119次	都城跡	向日市上植野町西大田	山口 博	59. 10. 12～ 60. 11. 30	解説参照	解説参照
22	長岡京跡右京第165次	都城跡	長岡京市開田二丁目	山口 博 三好 博喜	59. 6. 23～ 59. 7. 26	解説参照	解説参照
23	長岡京跡右京第171次	都城跡	長岡京市今里四丁目	石尾 政信 三好 博喜	59. 7. 9～ 59. 10. 13	解説参照	解説参照
24	平安京跡	都城跡	京都市北区大將軍坂田町	山口 博	59. 7. 19～ 59. 10. 11	解説参照	解説参照
25	奥山田池遺跡	散布地	綴喜郡田辺町三山木奥山田	増田 孝彦	59. 12. 19～ 60. 3. 29	顕著な遺構なし	須恵器・土師器
26	隼上り遺跡	散布地	宇治市菟道東隼上り	小池 寛史 荒川 寛史	59. 6. 18～ 60. 3. 30	解説参照	解説参照
27	隼上り古墳群	古墳	宇治市菟道東隼上り	小池 寛史 荒川 寛史	59. 10. 18～ 60. 3. 30	解説参照	解説参照
28	燈籠寺遺跡	散布地	相楽郡木津町内田山	戸原 和人	59. 8. 1～ 59. 10. 30	解説参照	解説参照
29	木津川河床遺跡	集落跡	八幡市八幡一丁目ほか	黒坪 一樹	59. 4. 17～ 59. 5. 10 59. 6. 1～ 59. 10. 12	掘立柱建物・溝	須恵器・土師器

番号	遺跡名称	種別	所在地	調査担当者	調査期間	概要	出土遺物
30	木津地区所在遺跡	古墳ほか	相楽郡木津町木津・市坂	戸原 和人 小山 雅人 黒坪 一樹	59.12.1~ 60.3.29	解説参照	解説参照

展示品出土遺跡分布図



志 高 遺 跡

縄文時代～江戸時代
舞鶴市字志高



溝 跡

〔遺 跡 の 概 要〕

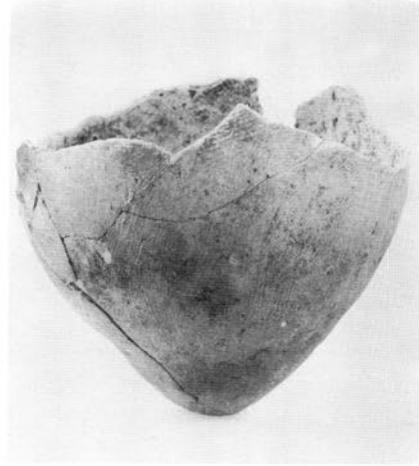
由良川沿いには多くの弥生時代の集落遺跡がありますが、この志高遺跡もそういったもの^{しだか}の一つで、由良川河口から約 10 km 上流の自然堤防の上に立地しています。

調査した結果、江戸時代の柱穴・溝・土壇が調査地全域でみつかったほか、古墳時代の溝・自然流路・柱穴などもみつかりました。住居跡などの人間が生活した跡は、今回検出できませんでしたが、弥生時代のおわりから古墳時代はじめ頃の土器が多量に出てきましたので、その頃の集落が今回の調査地の北西一帯に広がっていたと考えられます。もし、この位置が正しいとしますと、すでに発見された住居跡などの位置と考えあわせて、集落は由良川の川上から川下に向けて時代とともに移り変っているようすがうかがわれます。

また、江戸時代の出土遺物では唐津から伊万里へと時代によって主流が移っているようです。近世陶磁器の生産・交易を考える上で、良好な資料を得ることができました。



1. 弥生土器・高杯



2. 弥生土器・甕



3. 弥生土器・器台



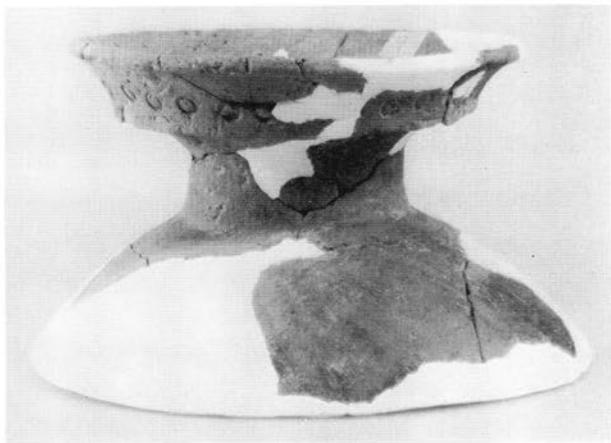
4. 弥生土器・台付鉢



5. 弥生土器・壺



6. 弥生土器・壺



7. 弥生土器・壺

奥谷西遺跡

弥生時代～鎌倉時代
福知山市大字大内小字奥谷西



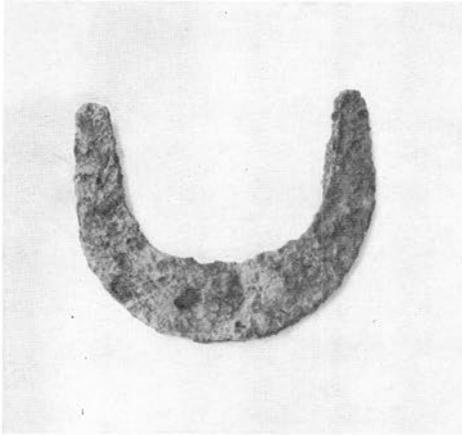
奥谷西遺跡全景

〔遺跡の概要〕

おくたにし
奥谷西遺跡は、土師川と竹田川の合流点に近く、土師川の南から北へ延びる丘陵（標高約77m）の台地上にあります。狭い谷を隔てた南には大内城跡、北にはケシケ谷遺跡があります。

この遺跡は昭和58年度から調査を実施し、弥生時代中期の溝2条・中期から後期にかけての竪穴式住居跡7基、古墳時代後期の竪穴式住居跡5基などがみつかりました。弥生時代のものは大きな溝と円形の住居跡であり、古墳時代後期のものは方形の住居跡になり、かまど竈をもつものもあります。遺物は、弥生土器・土師器・須恵器のほか、中世の遺物・石器・鉄器など様々で、相当な量にのぼっています。特に、古墳時代の住居跡から出土した須恵器は、当地方では古い時期のものと思われる。

なお、この遺跡では径75cmの円形をした土壇から、6世紀前半の須恵器の杯蓋とともに鉄製U字形のすき鋤先が2個組み合わせられて出土したことは、特異な例といえます。



8. 鉄器・鋤先



9. 須恵器・四耳壺



10. 須恵器



11. 弥生土器

北金岐遺跡

弥生時代～室町時代
亀岡市大井町北金岐



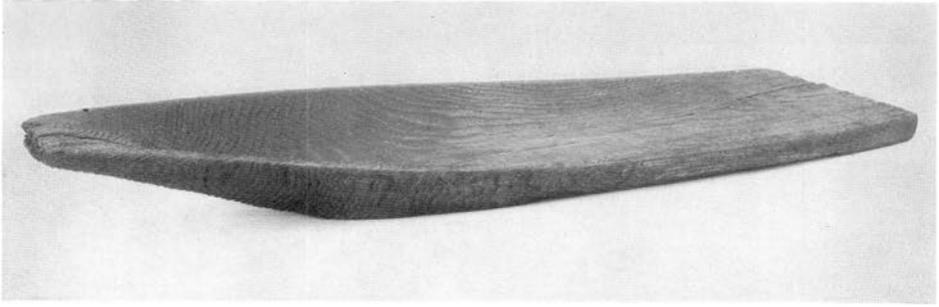
溝内遺物出土状況

〔遺跡の概要〕

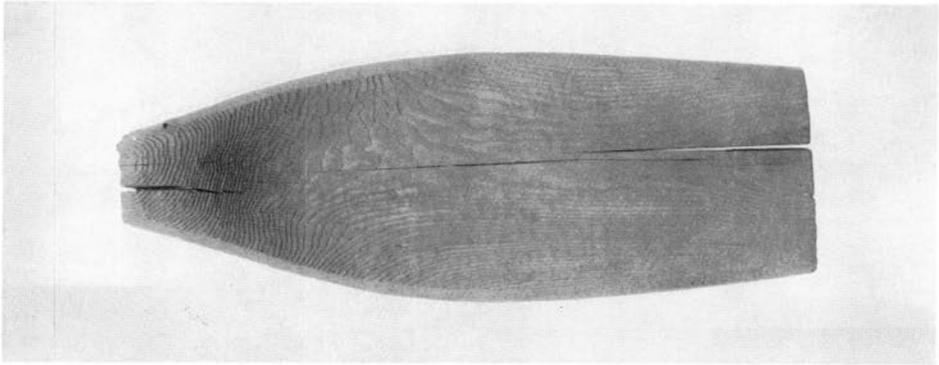
北金岐遺跡は、亀岡市大井町にある集落遺跡で、昨年度も紹介しましたが、弥生時代から室町時代にいたる複合遺跡であることがわかっています。

昨年度の調査では、奈良時代の溝や鎌倉時代の掘立柱建物跡3棟・土壇などがみつかり、この遺跡が長い時代にわたって存在したことを示しています。また、遺構はみつかりませんでした。遺物として弥生土器(壺形土器底部)の破片が出土しています。鎌倉時代以降の遺物もでていますが、それに対応するような遺構がみつからないので、建物がなくなったあと水田になったのかもしれない。

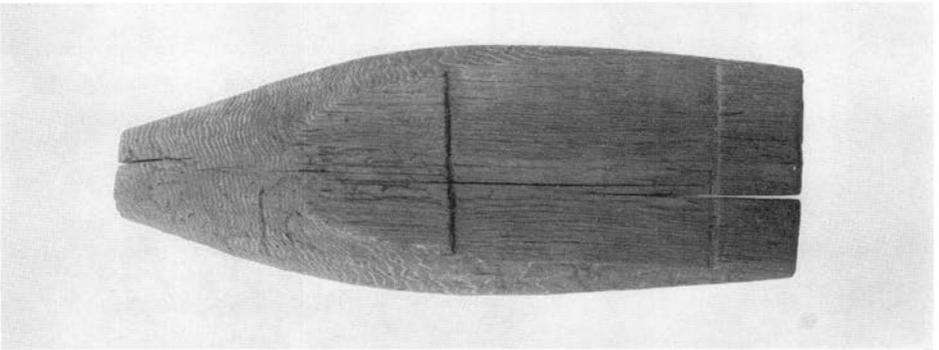
ところで、昨年度は保存処理のため展示できませんでしたが、一昨年度の調査で出土しました古墳時代前期の田舟を紹介します。田舟は、苗などを入れて運ぶ道具と考えられており、完全なかたちで出てきました。また、稲を保管する倉へのぼる梯子の一部もあり、当時の農耕のようすがしのべれます。



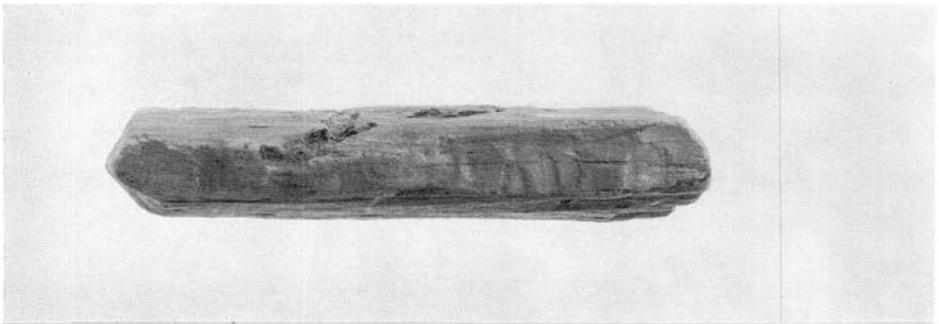
12. 田 舟



13. 田 舟 (上から)



14. 田 舟 (底 部)



15. 木 製 加 工 品

石 本 遺 跡

弥生時代～平安時代
福知山市大字牧小字段・岩田



竪穴式住居跡群

〔遺跡の概要〕

牧古墳群のある丘陵近くの牧集落南側に開けた水田地帯に、石本遺跡があります。ここでは昭和58年度に試掘調査を行い、竪穴式住居跡の一部や溝が出てきましたので、それらの時期や性格などを知るために調査の範囲を広げて発掘調査を実施しました。

調査の結果、古いところでは弥生時代の方形周溝墓の区画溝がみつき、その中には埋葬したときのおまつりに使用した壺や甕が納められていました。石本遺跡の中心は古墳時代で、10数基の竪穴式住居跡・掘立柱建物跡・柵列・溝などの遺構がみつきました。住居跡は1基について3～4回建て替えられていました。

この住居跡の西側には古墳時代の大きな溝が北東から南西方向に延びています。この溝からは集落で使われ捨てられた須恵器・土師器などのほか、大量の木製品（鞍・鋤先・下駄・火鑽臼など）が出土しています。このほか、奈良時代～平安時代にかけての掘立柱建物跡も数棟みついています。



16. 須恵器・高杯



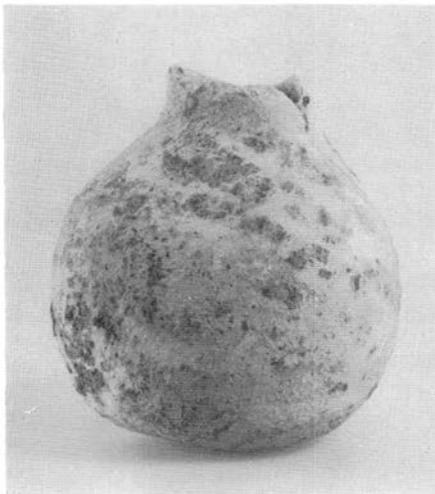
17. 須恵器・甕



18. 土師器・甕



19. 土師器・ミニチュア壺



20. 土師器・壺



21. 須恵器・高杯

波江古墳群

古墳時代後期
福知山市上天津字波江



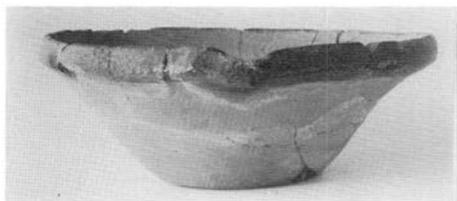
波江古墳群全景

〔遺跡の概要〕

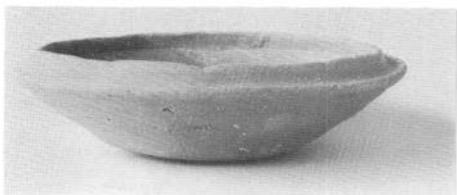
波江古墳群は、国鉄福知山駅の北約5kmの由良川と牧川の合流点近くの牧川右岸にある低い丘陵上に位置します。牧川周辺には古墳時代後期の群集墳が数多くあり、この波江古墳群も3基の古墳のあることがわかりました。

古墳のある丘陵は南東から北西方向に延びる狭いもので、尾根の先から3号墳・4号墳・5号墳と名づけました。古墳は3基とも木製の棺を直接土の中に埋めるもの(木棺直葬)で、石室を持ってはいませんでした。古墳のかたちも丘陵を溝で切り、少し土をもって方形に整える程度で、大がかりなものではありません。各古墳とその周辺より8基の棺がみつかりました。

遺物は、須恵器(杯身・有蓋高杯蓋)や鉄器、それに金環もでてきました。どれも6世紀後半～7世紀初頭にかけてのもので、この頃にこれらの古墳がつくられたことがわかります。



22. 片口鉢



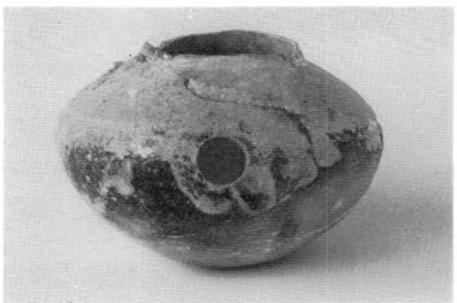
23. 須惠器・杯身



25. 須惠器・高杯蓋



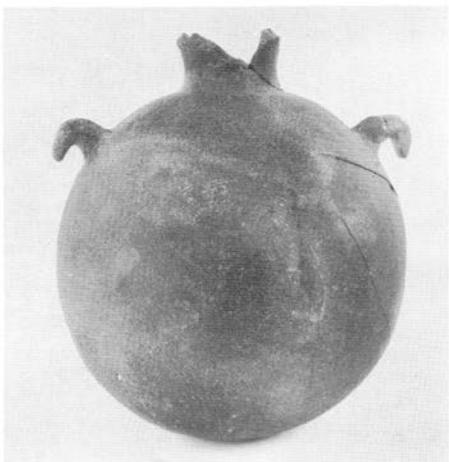
27. 須惠器・高杯



28. 須惠器・甕



24. 甕



26. 須惠器・提瓶



29. 須惠器・横瓶

薬王寺古墳群

古墳時代後期
福知山市多保市小字薬王寺



箱式石棺

〔遺跡の概要〕

薬王寺古墳群は、東から西へのびる丘陵上にあり、古墳からの眺めは極めてよく、福知山市の長田野方面や兵庫県竹田方面も遠望できる地です。

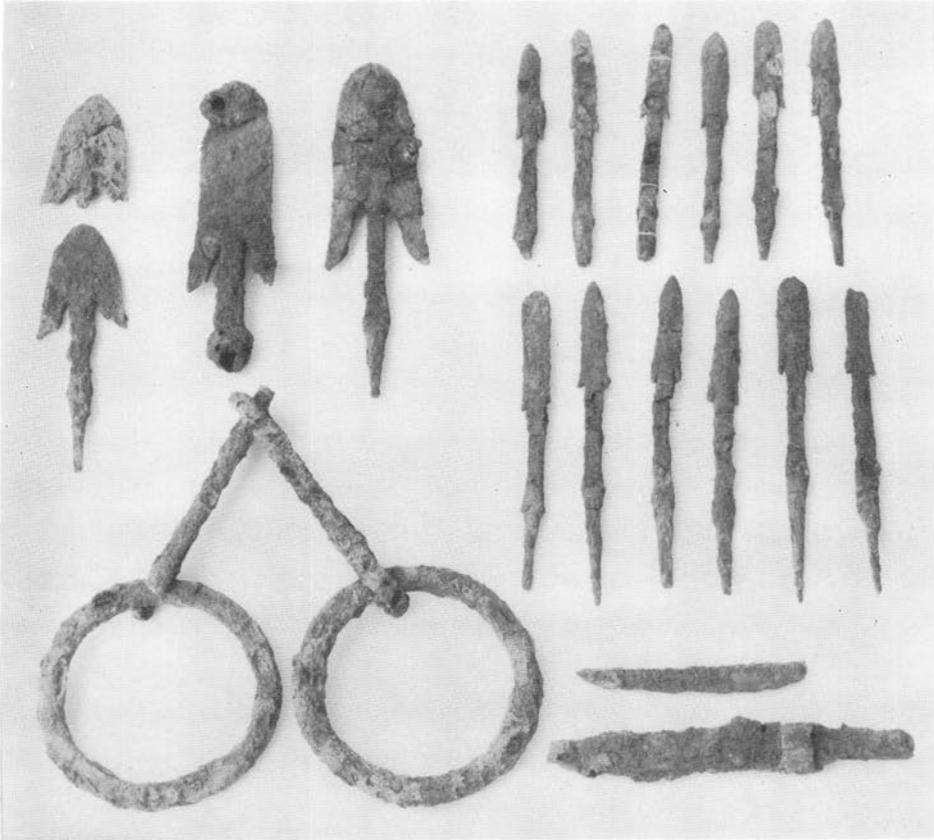
古墳は、調査によって5基発見され、尾根に直交する三日月状の溝を古墳の背後に掘り、少量の土を盛り上げて墳丘を作っています。その規模は径10 m前後と小さなものです。

埋葬施設は、箱式石棺と木棺とに区別されます。石棺は、平らな板石を組合せたもので、長さ1.7×幅0.5 m、高さ0.4 mの規模を持っていました。棺内から遺物は出土しませんでした。木棺は、平らな板を組合せたもので、小口板を背後からおさえるために粘土塊を配するものも見られました。遺物は、封土、棺上、棺内、墓坑内等から検出され、須恵器・土師器とともに、馬具(轡)、鉄刀、鉄鏃、刀子などの鉄製品も数多く見られました。

出土した遺物から、この古墳群は6世紀初頭～前半代につくられたものと考えられます。



30. 須 惠 器



31. 鉄 器

味方遺跡

弥生時代～奈良時代
綾部市味方町中ノ坪



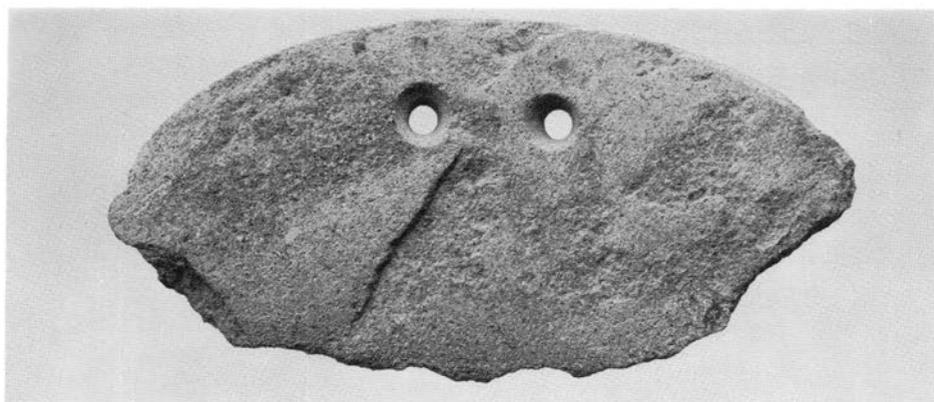
竪穴式住居跡・掘立柱建物跡

〔遺跡の概要〕

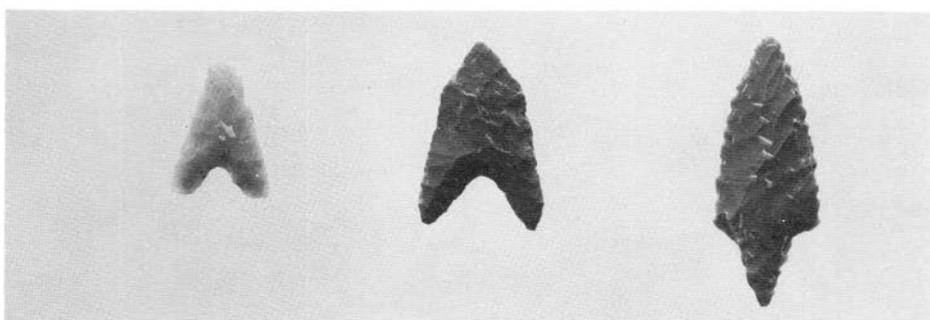
由良川が綾部盆地に入ると北に向って流路を変えますが、その曲がる^みところの右岸に味^{かた}方遺跡があります。

味方遺跡は昭和46年頃から縄文時代の石鏃やチャート片、弥生時代の土器、古墳～奈良時代にかけての須恵器・土師器などが採集される^みところとして知られていました。発掘調査の結果、弥生時代の円形竪穴式住居跡2基と溝・方形周溝墓状遺構、古墳時代後期の方形竪穴式住居跡2基などの遺構がみつかりました。特に、古墳時代の住居跡は「青野型住居跡」と呼ばれるもので、竈のつけ方が一般の住居とちがって、方形の隅のところで内側へ突出するようになったものをいいます。

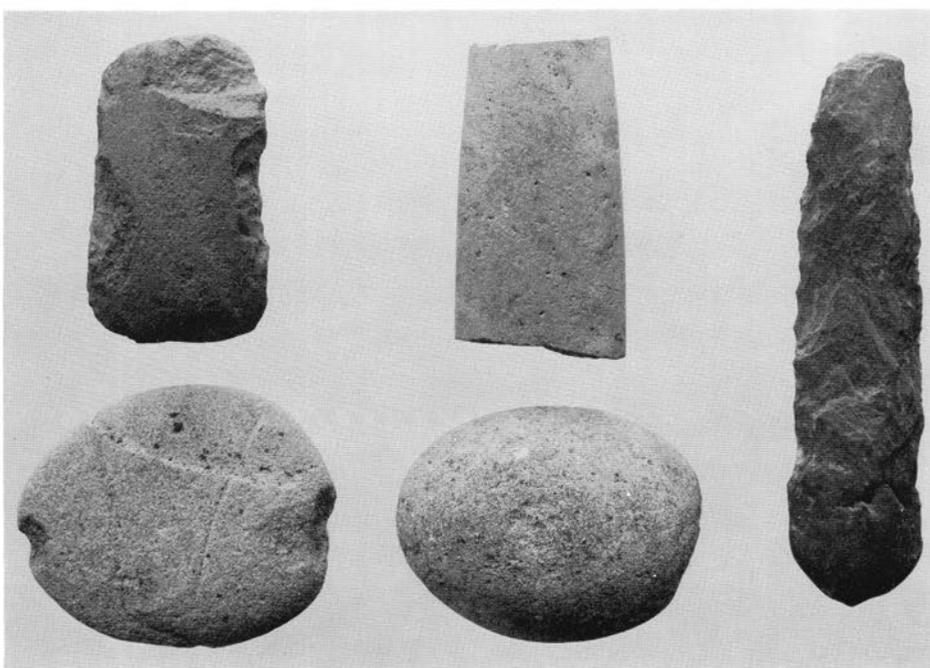
遺物は、縄文時代の石鏃・石錘・石斧をはじめとして、弥生土器・石包丁・石剣片・古墳時代～奈良時代の須恵器・土師器が多数出てきました。河岸に立地し、土錘などが出土したことから、漁撈に従事したことをうかがわせます。



32. 石 包 丁



33. 石 鏃



34. 石斧・石剣ほか

小金岐古墳群

古墳時代後期
亀岡市大井町小金岐



小金岐1号墳・横穴式石室

〔遺跡の概要〕

亀岡盆地の周辺には横穴式石室を持つ多くの古墳群がありますが、^{こかなぎ}小金岐古墳群はこうした古墳群の一つで、盆地の西側を走る行者山の裾に立地しています。

小金岐古墳群は古墳時代後期に造られた群集墳で、これまで76基あることが確かめられています。今回の調査はそのうち1・3・7号墳の3基についてのみ行いました。その中では1号墳が最も残りのよいもので、古墳のかたちは円墳になります。埋葬施設は横穴式石室で、部屋(玄室)の床には板石を敷いてあり、石を丁字形に置いて石室を3つに分けてありました。3号墳はこれほど残りはよくありませんでしたが、横穴式石室をみつけることができました。7号墳は墳丘だけの調査でしたので、詳しくは述べられませんが、3号墳より前に造られたことがわかりました。

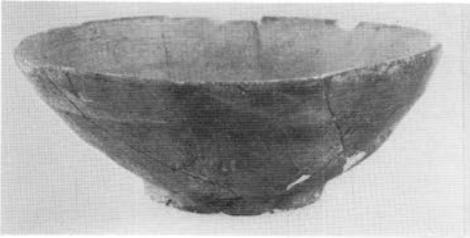
遺物は、須恵器(杯身・杯蓋・高杯など)・土師器・金環・鉄製品などが出土しており、これらの遺物から、今回調査の1・3号墳は6世紀後半に造られたことが明らかになりました。



35. 瓦器・碗



37. 瓦器・碗



39. 瓦器・碗



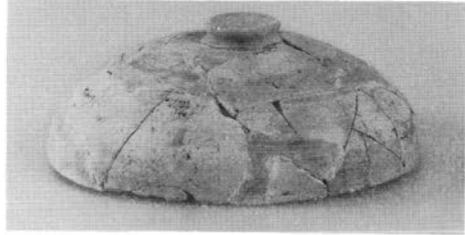
41. 須惠器・杯



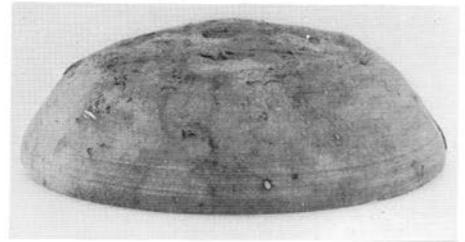
43. 土師器・皿



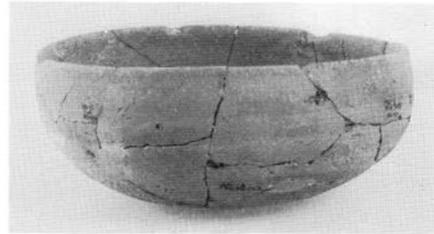
36. 須惠器・杯蓋



38. 須惠器・蓋



40. 須惠器・杯蓋



42. 須惠器・碗



44. 須惠器・甃

今里遺跡

弥生時代～室町時代
長岡京市今里4丁目



今里庄ヶ淵古墳周濠跡

〔遺跡の概要〕

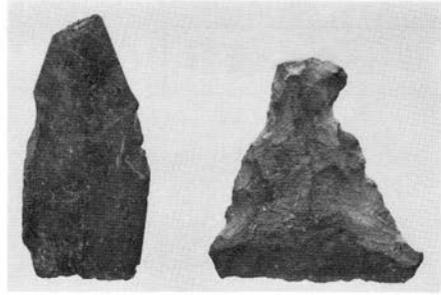
この遺跡は、乙訓寺が所在する今里の集落を中心に広がる遺跡です。今回の調査は、長岡京跡右京第171次調査として行ったもので、^{いまざと}今里の台地から東へ降りた沖積地に位置しています。いままでに、平安時代や弥生～飛鳥時代にかけての建物跡、今里車塚古墳の周濠等がみつかっています。

今回の調査で、今里遺跡では初例の弥生時代前期の円形竪穴式住居跡や、以前の調査で検出している古墳時代の溝の延長を確認しました。ところで、今回の調査で、この溝は帆立貝形をした古墳の周濠である可能性が出てきました。周濠内からは須恵器の蓋・杯・高杯・甕・壺などが出土しましたが、埴輪は含まれていませんでした。古墳とすれば、その時期は遺物からみて6世紀中葉と考えられます。

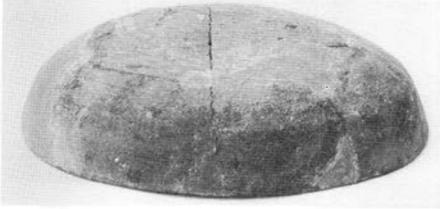
近年の調査で、墳丘を削平され、その存在を忘れ去られた古墳がいくつかみつかっていますが、この調査でまた一例加わることになります。



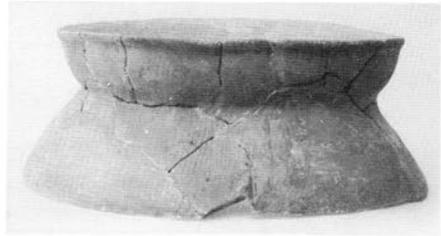
45. 須恵器・杯蓋



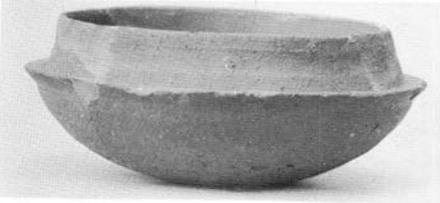
46. 石 器



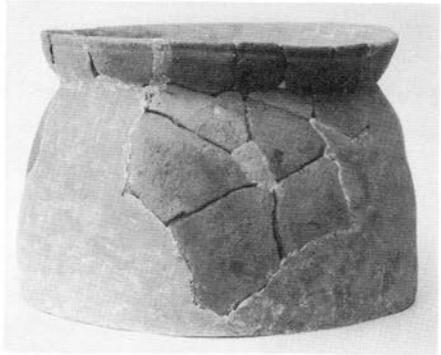
47. 須恵器・杯蓋



48. 土師器・甕



49. 須恵器・杯身



51. 土師器・甕



50. 須恵器・杯身



52. 須恵器・甕



53. 須恵器・甕

隼上り古墳群

古墳時代後期
宇治市菟道東隼上り



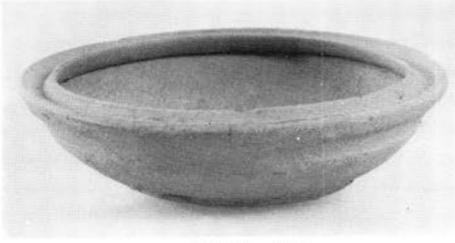
隼上り3号墳・横穴式石室

〔遺跡の概要〕

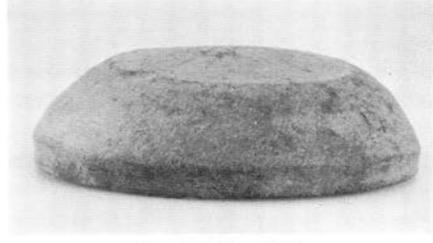
隼上り古墳は、宇治市菟道にあって、昨年度紹介した隼上り遺跡の近くにあります。

調査は、これまで知られていなかった3号墳とすでに知られていた2号墳と計2基について行いました。2号墳は、石材の一部が露出していました。古墳のかたち・大きさは盛り土や周濠が削られていて確認できませんでした。ただ、隣りにある1号墳(未調査)が円墳なので2号墳も円墳ではなかったかと考えています。埋葬施設は横穴式石室で、玄室の床面は全面に拳大の石が敷かれています。3号墳は、丘陵の南斜面につくられ、墳丘は削られていましたが、周濠の一部が出てきましたので、直径約12mの円墳とわかりました。この古墳も2号墳と同じく横穴式石室を埋葬施設とし、石室内には1辺40cm前後の石が2列に並んでいました。これは木棺を置いた棺台として用いられたようです。

遺物は、両古墳とも須恵器・金環・鉄釘などが出土しています。



54. 須惠器・杯身



55. 須惠器・杯蓋



56. 須惠器・高杯



57. 須惠器・甕



58. 須惠器・台付長頸壺



59. 須惠器・台付長頸壺

千代川遺跡第7次・第9次

弥生時代～鎌倉時代
亀岡市千代川町・大井町



人の足跡

〔遺跡の概要〕

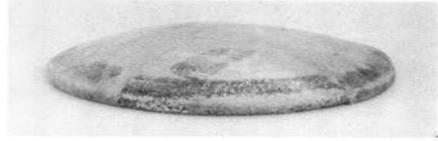
千代川遺跡は、^{ちよかわ}亀岡市千代川町から大井町にかけて広がる扇状地上に立地します。いままでの調査で、弥生時代から鎌倉時代に至る複合遺跡であることが確認されていますが、その中には丹波国府推定地や桑寺廃寺など注目すべきものもあります。

昭和59年度に行った第7次調査では、弥生時代中期の水田跡やそれに伴って足跡などがみつけられました。周辺の調査で同じ時期の集落跡がみつかったので、当時の人々が集落の傍らに水田を営み生活していた様子を知ることができました。

また、第9次調査では弥生時代から鎌倉時代にわたる多くの柱穴・土坑・溝がみつかりました。そして、それに伴って弥生土器や須恵器・土師器など数多くの遺物が出土しました。特に、奈良・平安時代の遺物の中には墨書土器や緑釉陶器など注目すべきものが含まれており、当地に推定されている丹波国府跡を考える上で、大変貴重な資料を得ることができました。



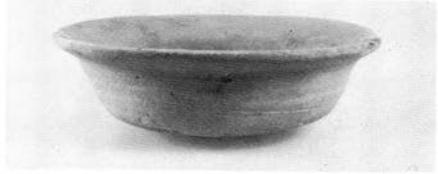
60. 須惠器・杯蓋



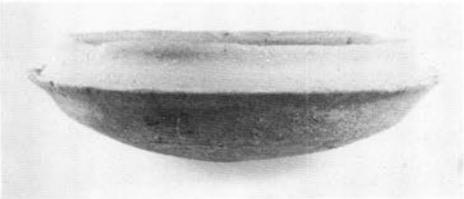
61. 須惠器・蓋



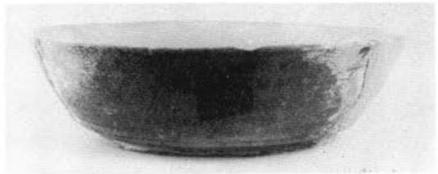
62. 須惠器・杯身



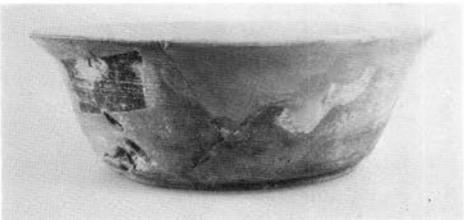
63. 須惠器・杯



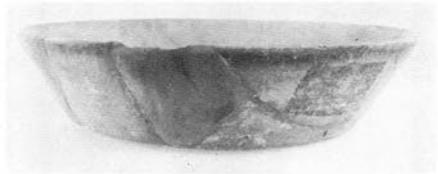
64. 須惠器・杯身



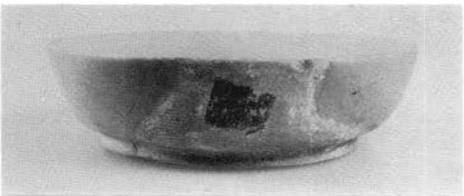
65. 須惠器・杯B



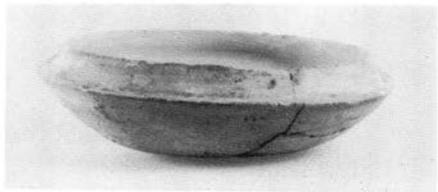
67. 須惠器・杯B



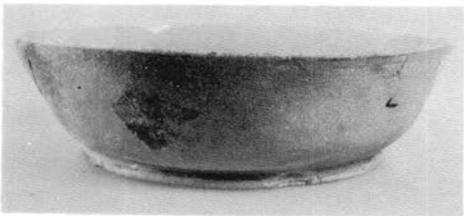
66. 須惠器・杯A



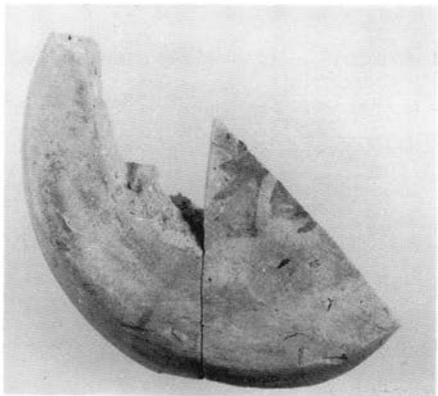
69. 須惠器・杯B



68. 須惠器・杯身



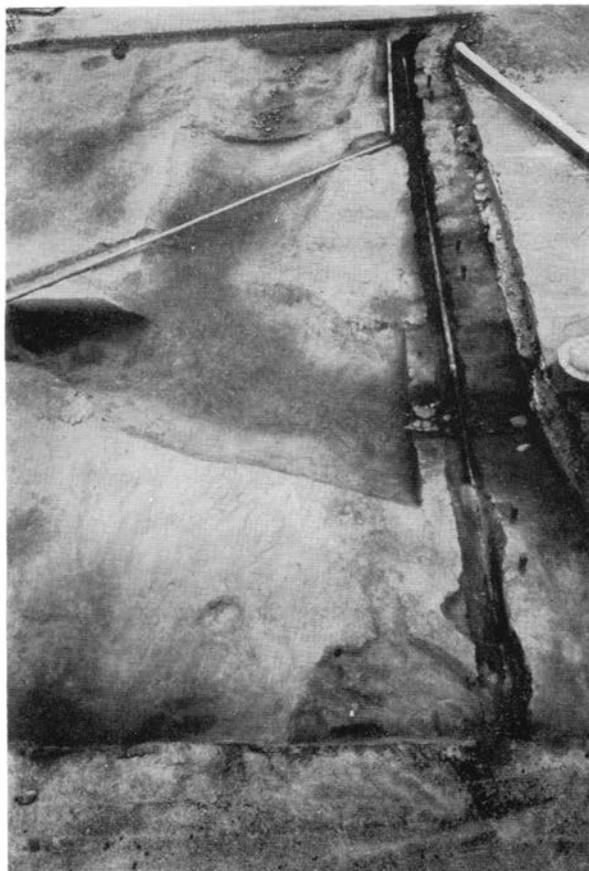
70. 須惠器・杯B



71. 墨書土器・「福」

燈籠寺遺跡

古墳時代～江戸時代
相楽郡木津町内田山

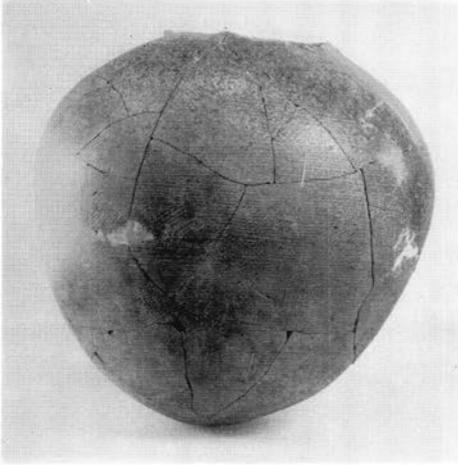


内田山2号墳・周濠

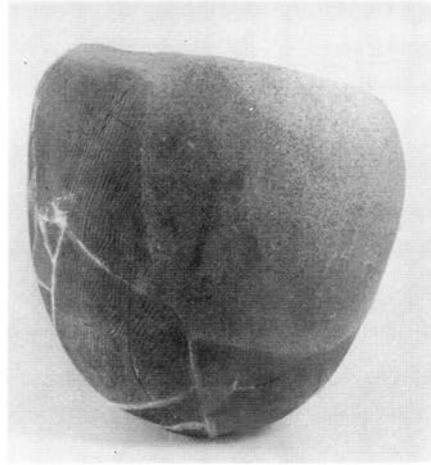
〔遺跡の概要〕

木津川左岸の内田山丘陵上は燈籠寺遺跡として、以前から土器や埴輪が発見されているところです。昭和56年度に行った調査では方墳が1基みつかりました。

今回の調査では、調査地の西端部で大きな掘り込みがみつかり、中から出土した土器や下駄から江戸時代の池であることがわかりました。調査地の東端部ではL字状に曲がった溝が出てきました。溝は大きく二層に分かれ、上層からは奈良時代の須恵器や土師器、土馬などが破片になって出てきました。下層からは円筒埴輪や家形埴輪がバラバラになって出土しました。この埴輪がみつかったことで、L字状の溝は古墳時代中期の方墳の周濠であることがわかりました。この古墳は「内田山2号墳」と名付けられ、昭和56年度にみつかった古墳とあわせて考えますと、おそらく木津地方の首長の奥津城おくつきであったと思われます。



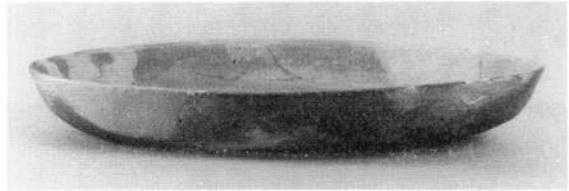
72. 須恵器・甕



73. 須恵器・甕



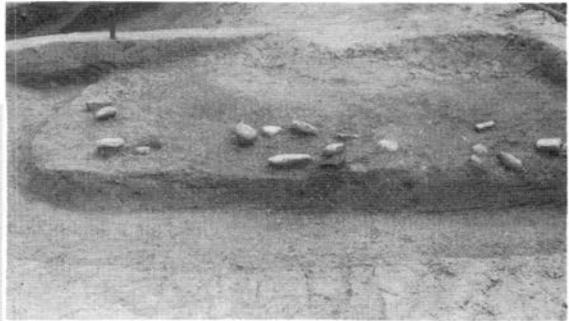
74. 須恵器・壺



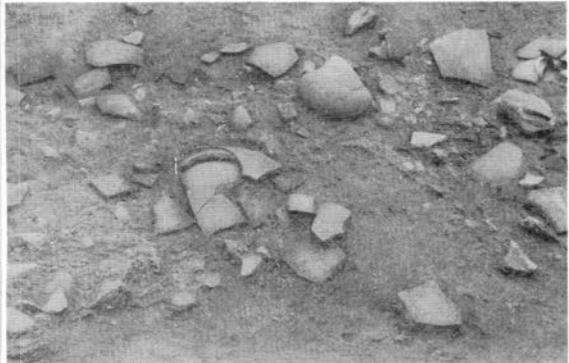
75. 須恵器・皿



77. 家形埴輪



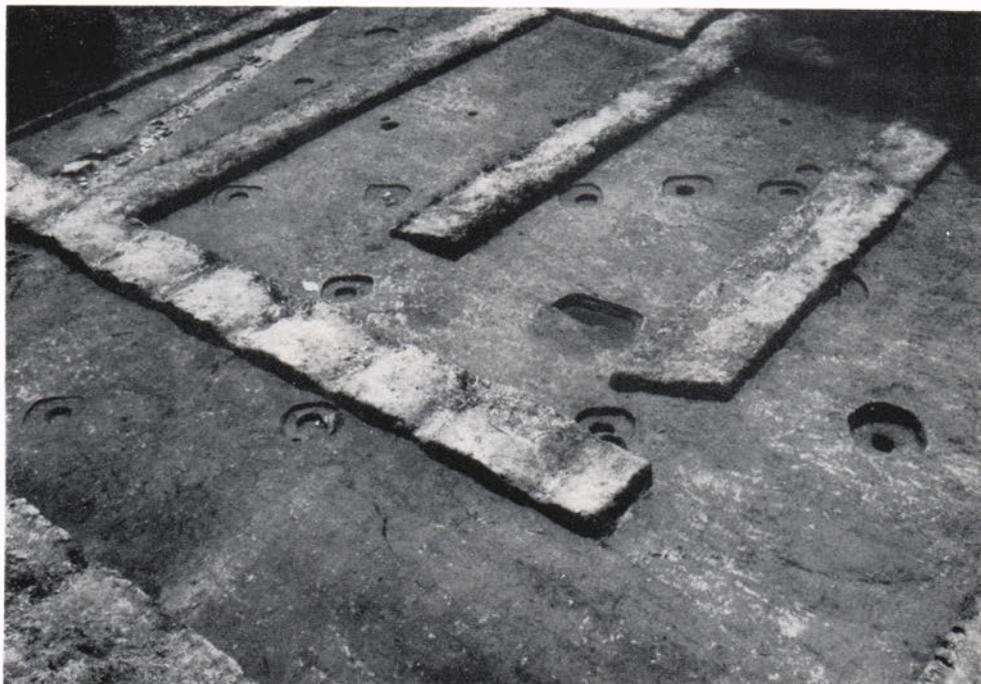
76. 内田山2号墳周濠検出状況



78. 遺物出土状況

木津地区所在遺跡

古墳時代～鎌倉時代
相楽郡木津町木津赤ヶ平・釜ヶ谷
// // 市坂上人ヶ平



掘立柱建物跡

〔遺跡の概要〕

昭和59年度は、^{あかがひら}赤ヶ平遺跡・^{かまがたに}釜ヶ谷遺跡・^{しょうにんがひら}上人ヶ平遺跡・^{いちさか}市坂1・4号墳の発掘調査を行いました。

赤ヶ平遺跡は、燈籠寺遺跡の東隣りの丘陵にあります。調査では柱穴のほか顕著な遺構はみつきりませんでした。石器や石器を作るときにできる剥片が多く出土しました。

釜ヶ谷遺跡は、燈籠寺遺跡と赤ヶ平遺跡の間の谷筋にあります。この谷を流れる川はかつては広く土砂を運んだらしく、弥生時代の石器や奈良時代の土器類などが出土しました。

上人ヶ平遺跡は、平坦な丘陵上であって、掘立柱建物跡がみつきりました。この遺跡からは軒丸瓦・鬼瓦・丸瓦・平瓦などが出土しましたが、建物跡の北西隅の柱穴からは東大寺や平城宮大膳職で使われた瓦が出てきました。いずれも奈良時代の瓦で、市坂瓦窯と関わる施設の跡かもしれません。

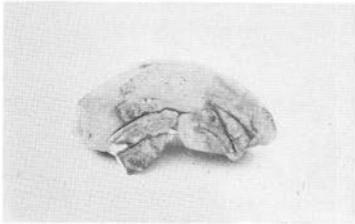
市坂1・4号墳のうち4号墳は古墳でないことがわかりました。1号墳は鉄道のため半分以上消滅しており、墳丘を巡る溝がみつきり多くの埴輪片も出てきました。



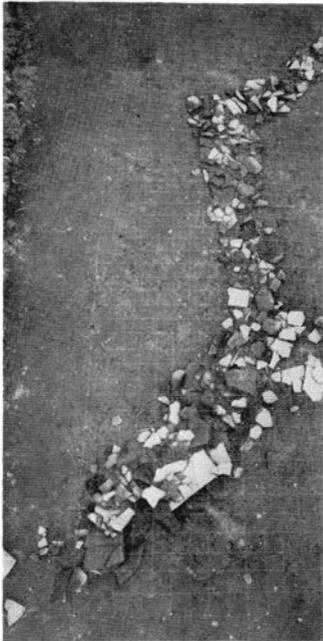
79. 須恵器・ミニチュア壺



80. 軒丸瓦



82. 軒丸瓦



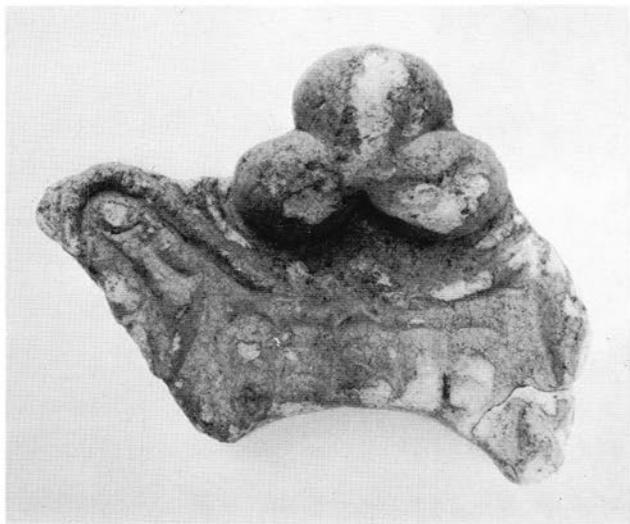
84. 瓦溜検出状況



81. 軒丸瓦



83. 軒平瓦

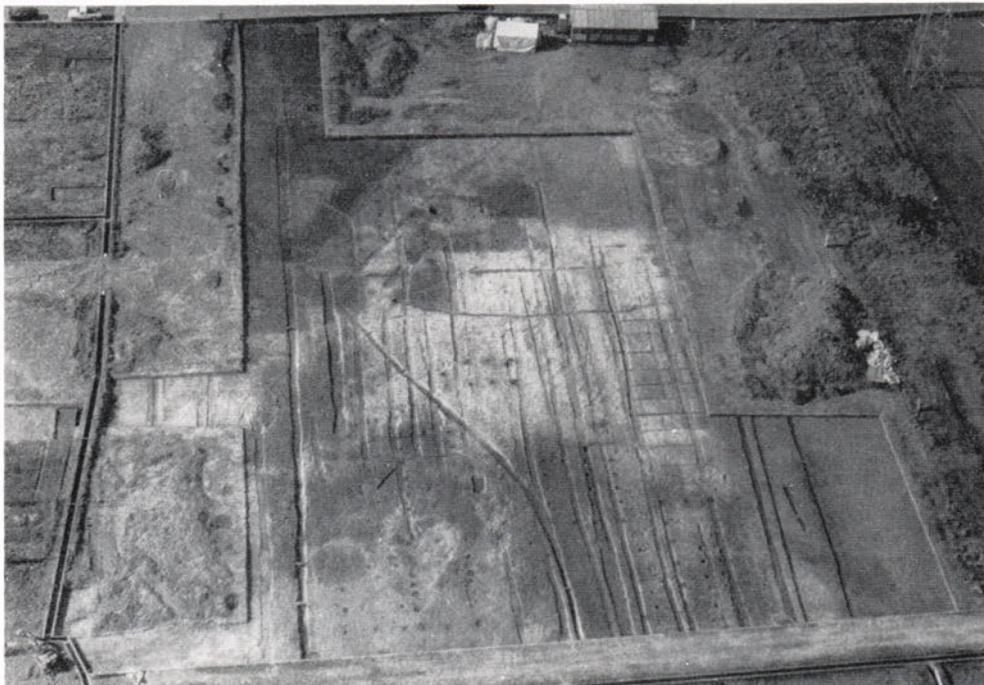


85. 鬼瓦

長岡京跡

(右京第165次・第171次、左京
第115次・第118次・第119次)

長岡京時代
長岡京市開田2丁目
同 市今里4丁目
同 市神足神田他
向日市森本町小柳他
向日市上植野町西大田



左京第118次調査地

〔遺跡の概要〕

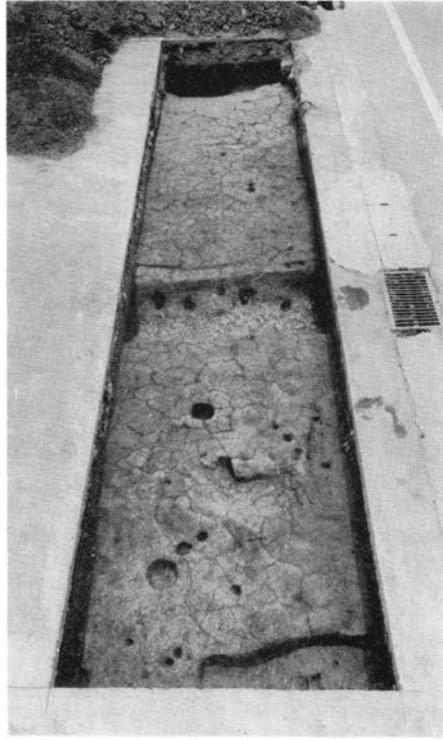
長岡京は、奈良の平城京から京都の平安京へ移る間、10年余り都が置かれたところです。わずか10年間の都でしたが、昭和30年から開始された発掘調査によって、宮殿や役所の跡、道路側溝や当時の人々の屋敷跡等が見つかり、かなり整備された都であることが判ってきています。昨年度行われた長岡宮・京跡の発掘調査は45件あまりあり、そのうち当調査研究センターでは、右京第165次・第171次、左京第115次・第118次・第119次の計5件の発掘調査を実施しました。長岡京に関連したものとしましては、道路側溝や長岡京時代の建物跡を検出し、多数の須恵器・土師器・瓦類のほか、木簡や墨書土器が出土しました。

右京第165次調査(長岡京市開田2丁目)では、西一坊大路の東西両側溝を確認し、溝内から、土師器の杯・皿・碗や須恵器の杯・皿・壺・甕等が出土しました。

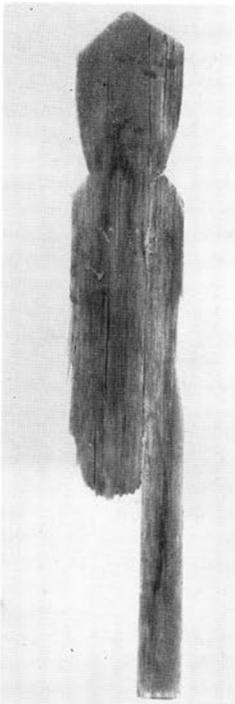
右京第171次調査(長岡京市今里4丁目)では、西二坊大路の西側溝を検出しました。



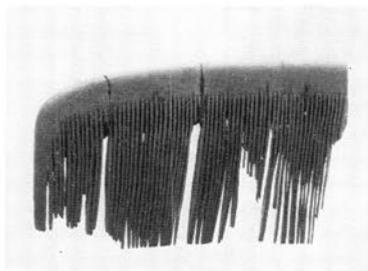
86. 西一坊大路東側溝 (右京165次)



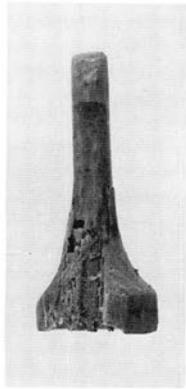
87. 西一坊大路西側溝 (右京165次)



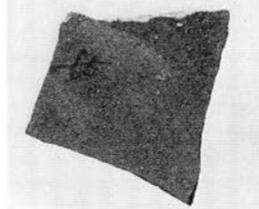
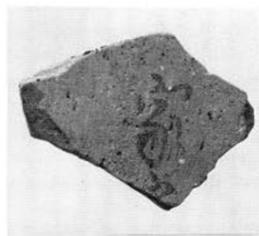
91. 人形 (左京118次)



88. 櫛 (左京118次)



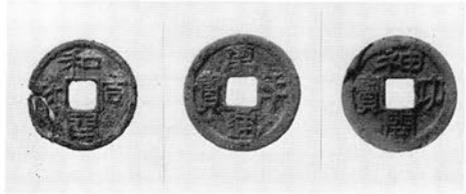
92. 木印 (左京118次)



89. 丸鞆 (左京118次) 90. 墨書土器 (左京119次)



89. 丸鞆 (左京118次)



93. 錢貨 (左京118次)

左京第118次調査(向日市森本町小柳他)では、南一条条間大路の南北両側溝のほか、長岡京時代の整然と並ぶ10棟以上の掘立柱建物跡、縦板組みの井戸枠を残す井戸、素掘りの井戸、柵列跡、土坑等を検出しました。出土遺物も、土師器の杯・皿・碗・壺・甕・蓋や須恵器の杯・皿・蓋・壺・甕・平瓶・高杯等のほか、軒平瓦・軒丸瓦、木印、刀子、こて状鉄製品、丸鞆(帯金具)、人形、櫛、斉串、銭貨(和同開珎・萬年通寶・神功開寶)、墨書土器、硯類等があります。墨書土器のなかには、「内膳」や「厨」と記されたものがあり、多数の転用硯の出土や、整然とした建物配置から考えて、なにか役所の出先機関でもあったのでしょうか。いろいろと考えさせられるものが出土しています。

左京第118次調査(向日市上植野町西大田)では、三条大路の北側溝を確認し、軒丸瓦・軒平瓦、木簡、墨書土器、硯類、土師器の碗・杯・皿・甕、須恵器の杯・皿・蓋・壺・平瓶・甕等が出土しています。木簡は「□□□板一村□」と記され、その後火鑽臼(発火具)に転用されています。「一村」というのは、材木の単位量を表しています。家を建てるための木材を持ってこさせたのでしょうか。

このほか、他の調査機関が行った調査でも多くの成果が上っています。二条大路の南北両側溝や北京極大路南北両側溝、朱雀大路の西側溝、西三坊大路西側溝、三条第1小路西側溝、二条第2小路南北両側溝等が検出されました。なかでも二条大路南北両側溝の検出は、溝心々間距離が約9m弱と小路級であり、長岡京の条坊研究にまた一石を投じました。

長岡京もここ30年でさまざまなことが判ってまいりました。しかし、二条大路の道路幅が小路級であったことを初めとして、謎は尽きません。天皇桓武が新たな政治の出発点として築いた長岡京、今後の調査で解明しなければならない点は、多く残されています。



94. 三条大路北側溝(左京119次)



95. 縦板組み井戸(左京118次)



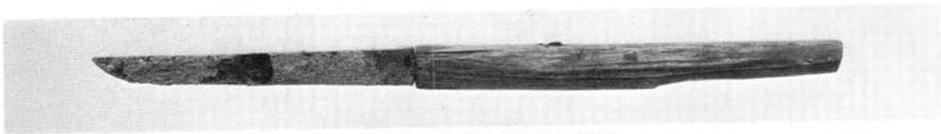
96. 木簡 (左京119次)



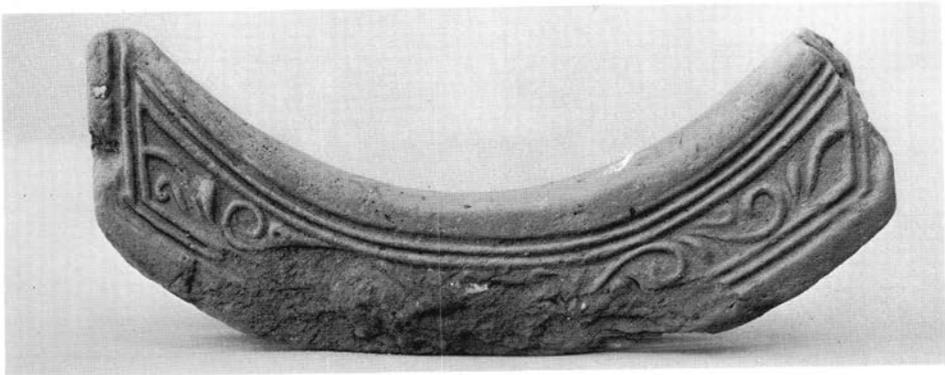
97. こて状鉄製品 (左京118次)



98. 軒丸瓦 (左京118次)



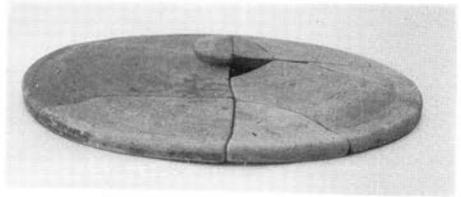
99. 刀子・刀子柄 (左京118次)



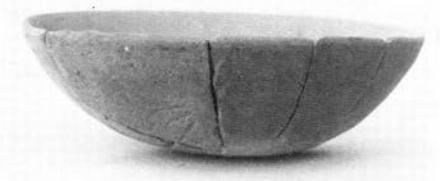
100. 軒平瓦 (左京119次)



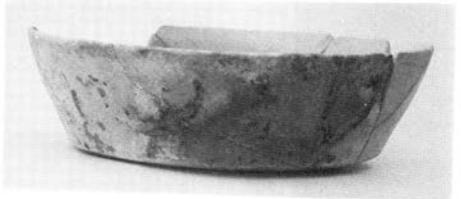
101. 土師器・碗A (右京165次)



102. 須恵器・蓋—墨書土器— (左京119次)



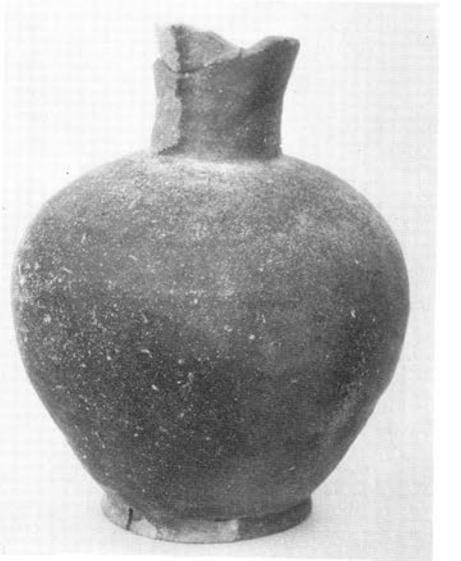
103. 土師器・碗A (右京165次)



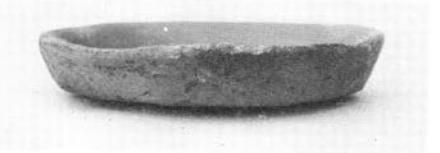
104. 須恵器・杯A (左京119次)



105. 土師器・皿A (右京165次)



108. 須恵器・壺L (左京119次)



106. 土師器・皿C (右京165次)



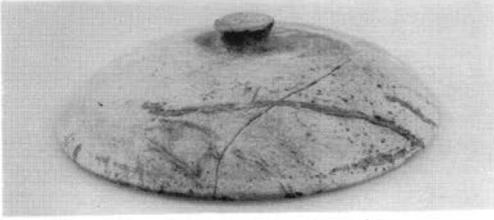
107. 須恵器・杯B (右京165次)



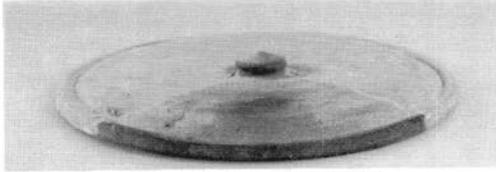
109. 土師器・甕 (右京165次)



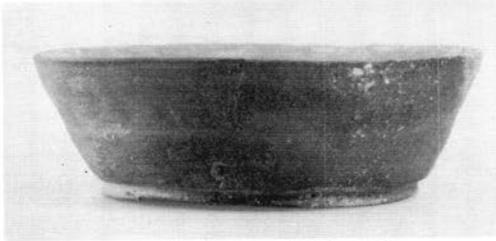
110. 軒平瓦 (左京119次)



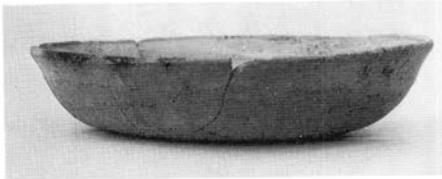
111. 土師器・蓋 (左京118次)



113. 須恵器・蓋 (左京118次)



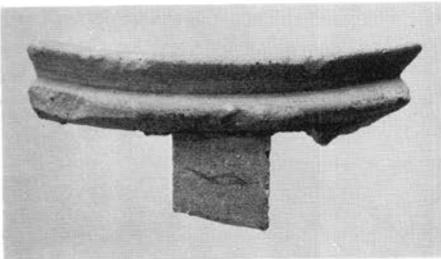
115. 須恵器・杯B (左京118次)



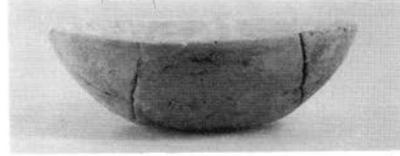
117. 土師器・杯A (左京119次)



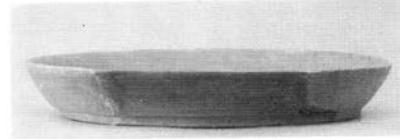
118. 土師器・杯B (左京119次)



120. 円面硯 (左京119次)



112. 土師器・碗A (左京118次)



114. 須恵器・皿B (左京119次)



116. 網代出土状況 (左京118次)



119. 須恵器・鉢 (左京119次)



121. 須恵器・平瓶 (左京119次)

平安京跡

平安時代
京都市北区大將軍坂田町



溝内遺物出土状況

〔遺跡の概要〕

へいあんきょう
平安京は、延暦13(794)年に桓武天皇が長岡京から遷都したところとしてよく知られています。

昨年度の調査は、昭和54・55年度の調査で寝殿造りの原形と言える建物跡(平安時代初期)が見つかったのと同じ京都府立山城高校の敷地内です。この建物跡は正殿・脇殿・後殿をもち、当時の貴族官人の住んだ邸宅のあとと考えられています。昨年度はこの邸宅内を区画する溝をはじめとして、邸宅よりも古い奈良時代の掘立柱建物跡や古墳時代終り頃の土壇などをみつけました。

遺物は、邸宅の内側の溝と考えられる溝から多量の土師器・須恵器・製塩土器・瓦などがまとまって出土しました。これらの土器類は邸宅がなくなったあと、一括して棄てられたもので、食器類と煮炊きに使った甕が大半を占めます。当時の人々が食生活に使った道具を知るよすがとなるでしょう。



122. 土師器・蓋



123. 土師器・蓋



124. 土師器・蓋



125. 土師器・皿A



127. 土師器・碗A



126. 土師器・皿A



129. 土師器・碗A



128. 土師器・杯A



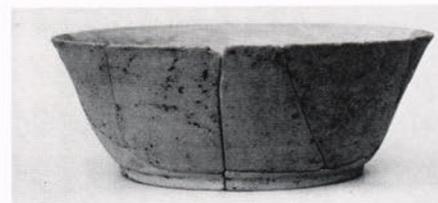
131. 土師器・甕



130. 土師器・碗A



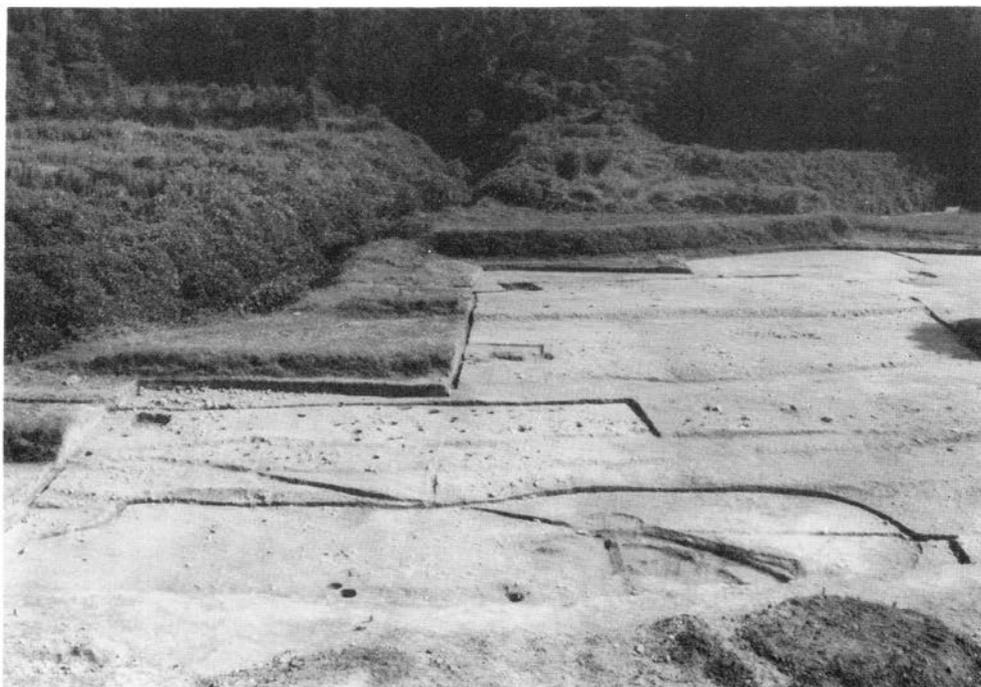
132. 須恵器・杯A



133. 須恵器・杯B

篠 窯 跡 群

奈良時代～平安時代後期
亀岡市篠町



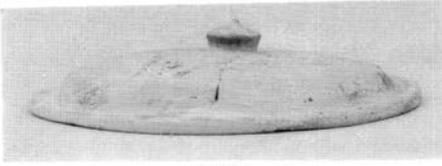
篠・西長尾A地区作業場跡

〔遺跡の概要〕

しのかまあとくん
篠窯跡群は、亀岡市篠町一帯の丘陵地にあつて、古墳時代の終りから平安時代後期までの400年間も続いた窯業生産遺跡として知られています。調査は昭和51年度から計画的に行われており、昨年度は芦原3・4号窯のほか、作業場跡として西長尾地区・黒岩地区の発掘調査を実施しました。

芦原3号窯は半地下式の登窯で、焼成部しか残っていませんでしたが、窯の南側では排水溝がみつかりました。4号窯については窯体を見つけることはできませんでした。また、作業場跡では、柱穴・溝・土壇状遺構などが多数みつかつており、須恵器の選別を行うなど、窯業生産に関連した遺跡と思われます。

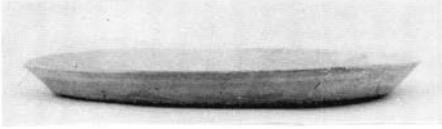
遺物は、西長尾地区では9世紀から10世紀までの須恵器が、また黒岩地区の作業場跡では近くの黒岩1号窯(緑釉陶器を焼いた三角形の窯)で出土したものと同一ような緑釉陶器が20点ほど出土しています。



134. 須恵器・蓋



136. 須恵器・杯



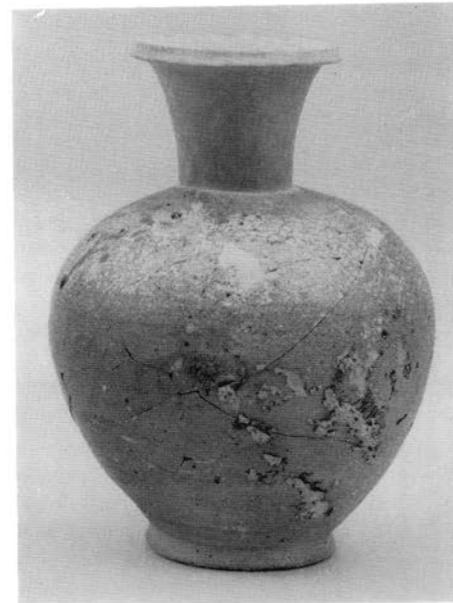
135. 須恵器・皿



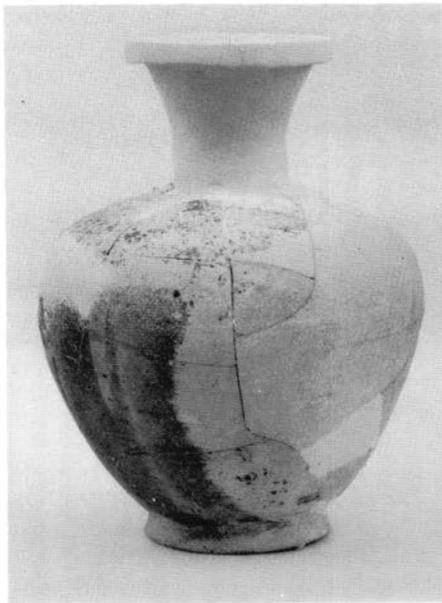
138. 土師器・甕



137. 須恵器・壺



140. 須恵器・瓶



139. 須恵器・瓶

隼上り遺跡

古墳時代・後期～江戸時代
宇治市菟道東隼上り



土坑内・青磁碗出土状況

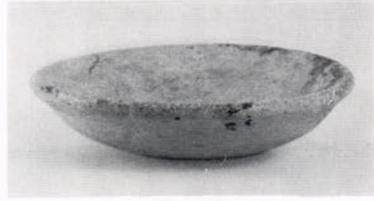
〔遺跡の概要〕

隼上り遺跡は、宇治市菟道にあります。昨年度も紹介しましたが、そのときは飛鳥時代の隼上り瓦窯に関連した建物跡が出てきました。

今回の調査では、表土以下約2.5 mのところまで5基の中世墓がみつかりました。遺物が出土したのは土坑1基だけで、長軸185 cm・短軸65 cmの隅丸長方形をしており、深さは約15 cmありました。この土坑から青磁碗2点・須恵質土器(燈明皿)1点・鉄釘約30点・漆器1点などが出土しました。青磁碗2点は完形品で、中国の龍泉窯(福建省)で焼かれたものです。そのうち1点は内面に劃花花卉文を施しています。青磁碗は2点が重なった状態になっていましたが、その間には漆器の皿が入っていました。漆器は、すでに木の部分がなくなり、漆の被膜しか残っていませんでした。



141. 青磁碗



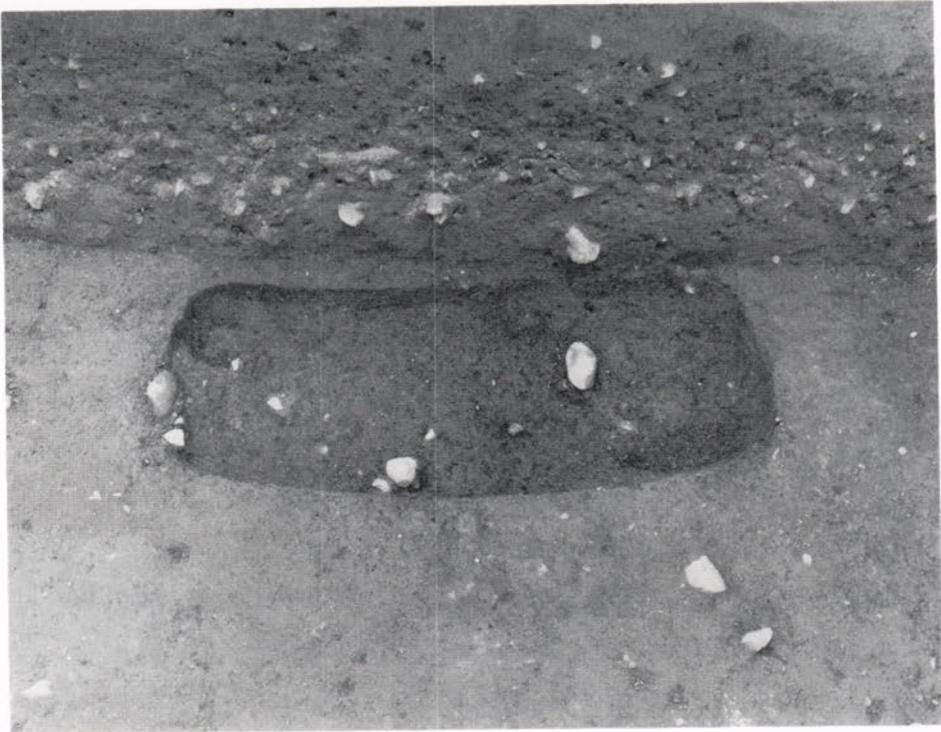
142. 燈明皿



143. 青磁碗



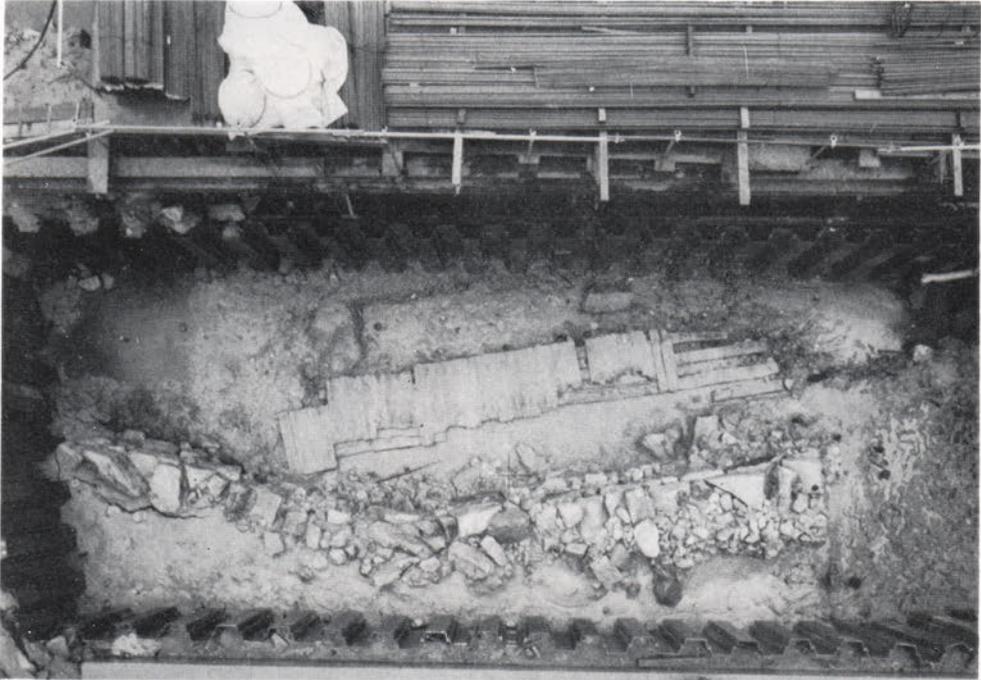
144. 青磁碗出土狀況



145. 青磁碗出土土坑完掘狀況

宮津城跡

安土・桃山～江戸時代
宮津市字柳縄手



宮津城石垣検出状況

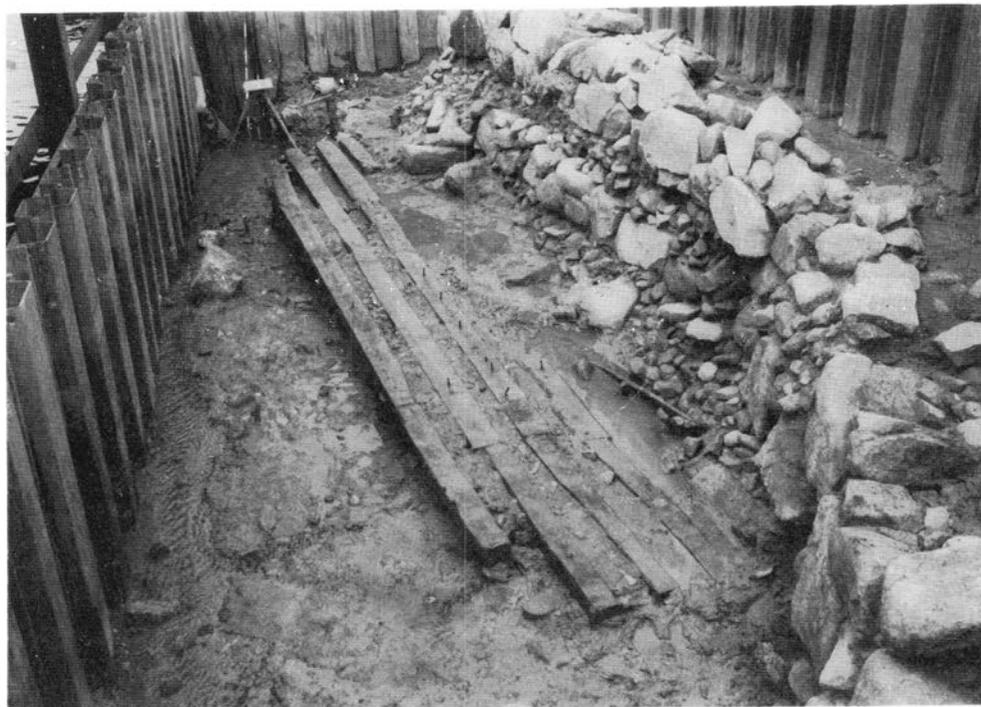
〔遺跡の概要〕

みやづじょう
宮津城跡は、宮津谷を南から北に流れる大手川の河口の東にあって、現在は宮津市の中心部として市街地になっています。

宮津城は天正8(1580)年に細川藤孝・忠興父子の手により造られ、慶長5(1600)年に京極高広が当地に入り改築を行いました。その後、永井氏・阿部氏・奥平氏・青山氏・本壮氏が次々と領主になりましたが、城の規模は京極氏の築城以来ほとんど変化がなかったようです。

今回の調査では、大手橋右岸のところから新・旧二時期の石垣がみつかりました。石材には花崗岩の割石と自然石を用いています。この自然石のみで積み上げた石垣が古い方で宮津城の大手橋から北東方向へと延びた外堀の東側石垣にあたります。

なお、石垣に平行して旧大手橋の橋台の基礎に用いた胴木がみつかっています。旧大手橋は明治19(1886)年に造られたもので、胴木から当時の工法をしのぶことができます。



146. 宮津城石垣および旧大手橋橋台検出状況



147. 宮津城石垣

物集女車塚古墳

(向日市教育委員会)

古墳時代後期
向日市物集女町南条



墳丘全景

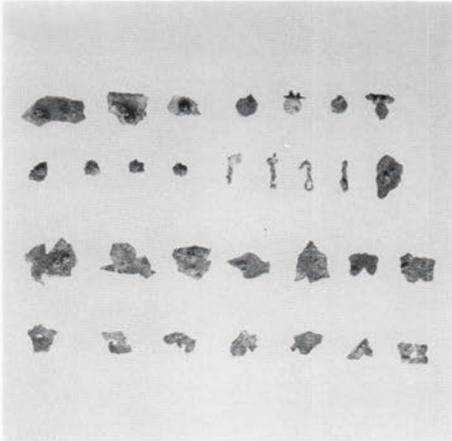
〔遺跡の概要〕

物集女車塚古墳は、乙訓の首長墓として全国的に著名な前方後円墳です。近年墳丘の自然崩壊の進行が著しいため、向日市教育委員会では整備事業を計画し、そのための調査を1983年度より実施しています。二年度目にあたる昨年には、前年に初めて存在が確認された内部主体・横穴式石室の調査を中心に、一部墳丘の補足調査をおこないました。

二年にわたる発掘の結果、墳丘は全長約45mの東面する二段築成の前方後円墳で、一段目は地山削出し整形、二段目は盛土で構築されていること、境のテラス面には埴輪列が廻らされ、二段目斜面には葺石が施されていること等が判明しました。後円部に築かれた横穴式石室は、古式の形態を示し、閉塞施設や羨道部入口付近を含めほぼ完存していました。奥には凝灰岩製の組合せ式家形石棺が安置され、石室礫床下には整った排水溝が構築されています。石室内は盗掘を被っていたものの多様な遺物が検出されました。石棺内からは金銅製冠等の装身具や刀剣装具、石室床面からは須恵器・土師器・装身具・金銅張り等の馬具・武器のほか、凝灰岩製用途不明材が出土し、本墳の築造は6世紀前半と考えられます。



148. 須恵器・土師器



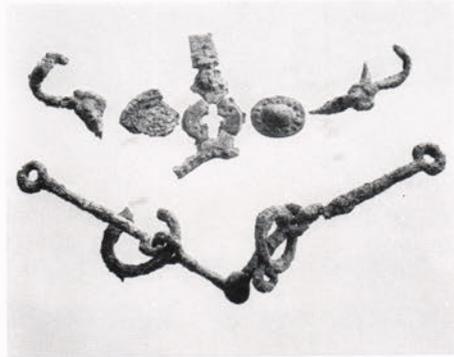
149. 金銅製冠片



150. ガラス小玉



152. 横穴式石室・家形石棺



151. 馬具(轡)



153. 馬具(杏葉・馬鐸)

鴨田遺跡

(向日市教育委員会)

古墳時代

向日市上植野町鴨田・十ヶ坪

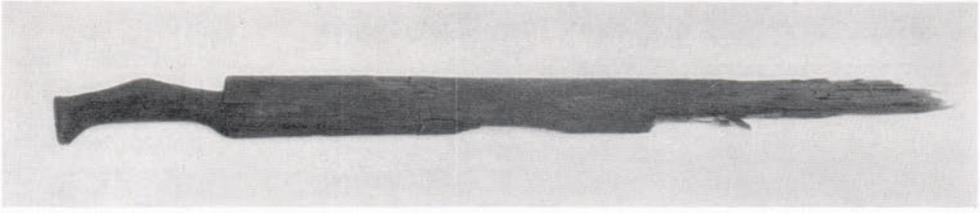


調査地全景（東から）

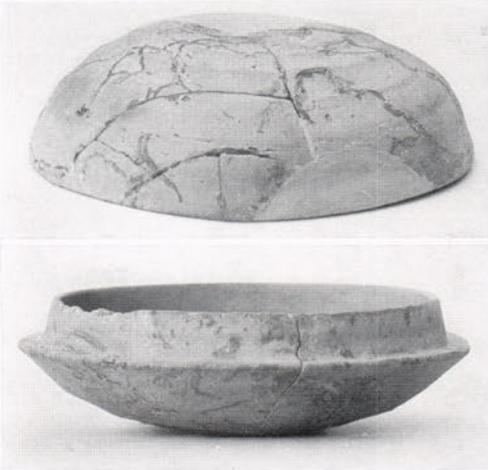
〔遺跡の概要〕

鴨田遺跡は、丹波山地に発した小畑川が形成した扇状地上に営なまれた古墳時代前期から後期に至る集落跡です。過去に4回の調査が実施され、1979年の第1次調査では、布留式土器の良好な一括資料が出土しています。今回の調査では、5世紀末から6世紀後半に至る竪穴式住居跡8棟、7世紀前後の掘立柱建物跡2棟、5世紀前半の井戸1基、5世紀前半頃に堆積し始め、7世紀初頭には埋没したと考えられる大溝1条が検出されています。これらの成果から、当遺跡は、当初西に形成されていた集落が、次第に東へ拡大し、7世紀前半頃には廃絶された集落跡であることが明らかとなりました。

出土した遺物には、土師器では布留式の高杯・小型丸底壺・甕、それ以後の高杯・鉢・把手付鉢・甕・甌・甗・製塩土器、須恵器では杯身・杯蓋・高杯・鉢・台付鉢・器台・甌・甕、木器ではナスビ形木器・下駄・盤・刀形・刀子形木製品・手斧柄などがあります。他に包含層からではあるが、管玉・ガラス玉が各1点出土しており注目されます。



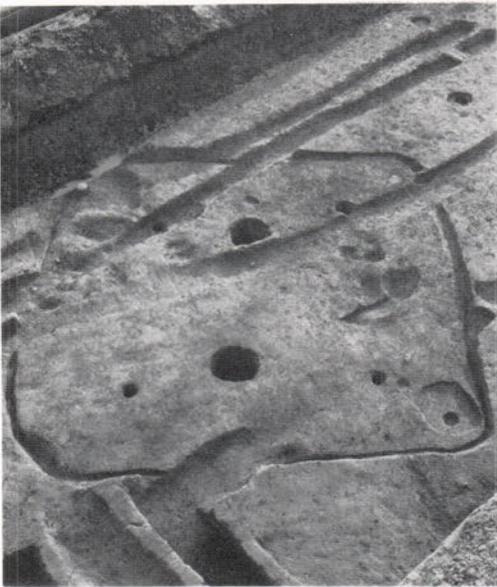
154. 刀形木製品



155. 須恵器・杯身・杯蓋



156. 土師器・台付鉢



157. 竪穴式住居跡



158. 土師器・甕

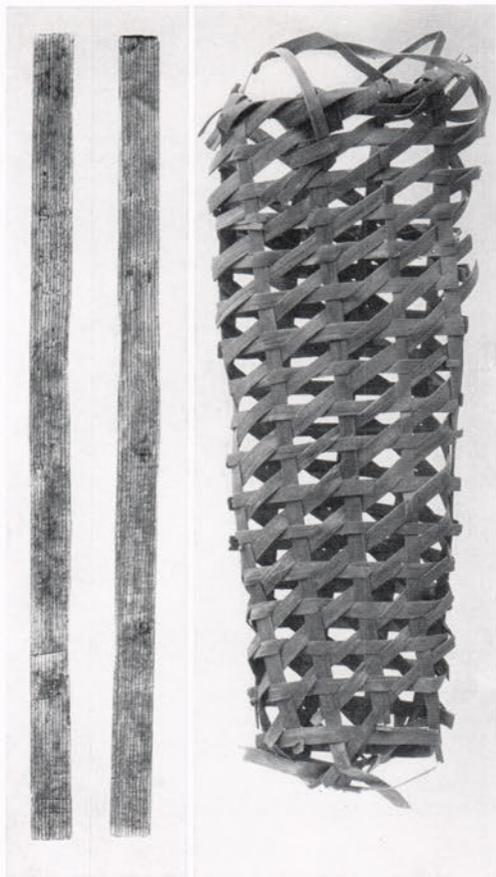


四条第二小路 SF 10600 と建物 SD 10633 (東から)

〔遺跡の概要〕

今回の調査地は、長岡京跡の左京四条二坊五・六町に位置しています。左京四条二坊には当時、北部に小畑川が流れており、調査地付近は、比較的低湿な土地となっていました。検出された遺構には2時期あり、前期には、五町と六町を南北に分ける四条第二小路の両側溝、掘立柱建物2棟、2.1~2.4 m 等間に走る溝群等が、後期には、四条第二小路側溝を埋め立てて設けられた縦板2段組井戸1基、同路面上に設けられた掘立柱建物1棟や、これと柱筋を揃える大規模な掘立柱建物等があります。

今回の調査で最も注目すべき事柄は、後期に入って、宅地利用規模が2町域に拡大されたことです。後期には建物規模も大きくなり、共伴する遺物にも、漆器鉢の優品や独楽・深籠・木簡等、特異な物が多数あります。近年の研究によれば、長岡京の造営が、延暦8年頃に再び盛んとなり、建物の整備が行われたと言われていますが、これらの遺構も、そうした事実を示す好例と言えるでしょう。



159. 木簡

160. 籠



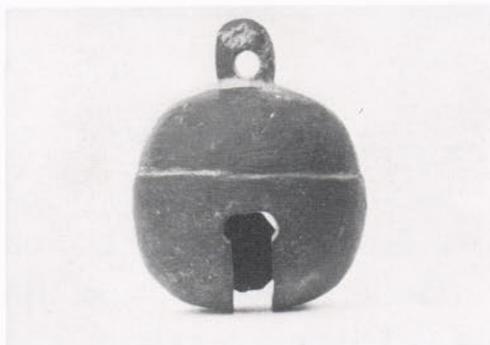
161. 墨書土器



162. 墨書人面土器



163. 井 戸



164. 銅 鈴



165. 漆器鉢

長岡京跡左京第120次

(向日市教育委員会)

長岡京時代
向日市上植野町地田



調査地全景（東から）

〔調査の概要〕

長岡京跡左京第120次調査は、約3,000 m²の範囲を発掘しました。その結果、今まで一度も調査のなされていなかった二条大路を検出することができました。二条大路は、宮城の南限を画する主要東西路で、他の都城例等からも相当の規模を持つものと推定されてきました(例えば平城京では幅17丈：51 m)。しかし今回確認された二条大路は、路の南北両側にある溝の中心間の距離が8.9 mしかなく、とても大路と呼べる規模でないことが判明しました。この成果は、長岡京個有の条坊復原に貴重なデータが得られたといえましょう。特にかつて調査確認されていた三条条間小路(二条大路より2本南)の南北両側溝の中心間が25 mもあって、ここまで宮城が南下するのではないかとする説との関係で注目されるところです。また京の南北路である東二坊第一小路の東西両側溝と東二坊坊間小路の西側溝、及びそれらと二条大路との交差点のほか、町内の溝5・掘立柱建物跡4・柵列1・井戸1が検出されました。遺物は大量に出土し、とりわけ木簡・墨書土器・多量の軒丸瓦・軒平瓦・鴟尾・埴・鑄放し銭(神功開寶)・各種金属器等は特筆すべきものです。

展 示 品 目 録

番号	遺 跡 名	出 品 遺 物	点数	時 代	写真番号
1	志 高 遺 跡	弥生土器・壺	2	弥生時代・中期	5・6
		高杯	1	弥生時代・後期	1
		蓋・甕	各1	弥生時代・後期	2
		台付鉢	1	弥生時代・後期	4
		器台	1	弥生時代・後期	3
		管 玉・小 玉	各1	弥生時代・中期	
		土 師 器・甕	1	古墳時代・前期	
		皿	1	奈 良 時 代	
		須 恵 器・杯B	1	奈 良 時 代	
		陶 磁 器・皿	2	江 戸 時 代	
		碗	3	江 戸 時 代	
		小鉢	1	江 戸 時 代	
		絵皿	1	江 戸 時 代	
		縄文土器・鉢	1	縄文時代・後期	
		2	奥 谷 西 遺 跡	磨 製 石 剣	2
石 斧	1			弥 生 時 代	
弥生土器・高杯	2			弥生時代・中期	11
台付鉢	1			弥生時代・中期	11
器台	2			弥生時代・後期	11
鉢	1			弥生時代・後期	11
土 師 器・高杯	1			古墳時代・後期	
甕	1			古墳時代・後期	
須 恵 器・高杯	1			古墳時代・後期	10
高杯蓋	1			古墳時代・後期	10
蓋	1			古墳時代・後期	10
四耳壺	2			平 安 時 代	9
甕	1			古墳時代・後期	10
鉄 器・鋤先	2			古墳時代・後期	8
3	北 金 岐 遺 跡	田 舟	1	古墳時代・前期	12・13・14
		は し ご	1	古墳時代・前期	
		堰 板	2	古墳時代・前期	

番号	遺 跡 名	出 品 遺 物	点数	時 代	写真番号
4	石 本 遺 跡	弥生土器・高杯	1	弥 生 時 代	17 16・21 18・20 19
		蓋	1	弥 生 時 代	
		須 恵 器・甕	2	古墳時代・後期	
		杯身	2	古墳時代・後期	
		杯蓋	2	古墳時代・後期	
		高杯	2	古墳時代・後期	
		土 師 器・壺・甕	各1	古墳時代・後期	
		ミニチュア壺	1	古墳時代・後期	
		土 錘	10	古墳時代・後期	
		石 器	5	縄文～弥生時代	
		玉 類	5	古墳時代・後期	
5	波 江 古 墳 群	須 恵 器・高杯	4	古墳時代・後期	27
		高杯蓋	3	古墳時代・後期	25
		杯身	2	古墳時代・後期	23
		甕	1	古墳時代・後期	28
		横瓶	1	古墳時代・後期	29
		提瓶	1	古墳時代・後期	26
		土 師 器・椀	1	古墳時代・後期	
		陶 器・甕	1	鎌 倉 時 代	24
		片口鉢	1	鎌 倉 時 代	22
6	薬王寺古墳群	(1号墳) 須恵器・壺	1	古墳時代・後期	30
		(2号墳) 須恵器・杯身	3	古墳時代・後期	30
		杯蓋	3	古墳時代・後期	30
		甕	1	古墳時代・後期	30
		鉄 器・刀子	1	古墳時代・後期	31
		(3号墳) 須恵器・甕	1	古墳時代・後期	30
		土師器・甕	1	古墳時代・後期	
		椀	1	古墳時代・後期	
7	味 方 遺 跡	須 恵 器・杯身	3	古墳時代・後期	34 32
		石 器・石錘	1	縄 文 時 代	
		石斧	1	縄 文 時 代	
		石包丁	1	弥 生 時 代	

番号	遺 跡 名	出 品 遺 物	点数	時 代	写真番号
		石 鏡	3	縄文～弥生時代	33
8	小 金 岐 古 墳 群	(1号墳) 須恵器・蓋	2	古墳時代・後期	38・40 35・37・39
		瓦 器・椀	3	平安～鎌倉時代	
		銀 環	2	古墳時代・後期	36 44
		(3号墳) 須恵器・蓋	2	古墳時代・後期	
		甕	1	古墳時代・後期	
		高杯	2	古墳時代・後期	43
		杯身	1	古墳時代・後期	
		提瓶	2	古墳時代・後期	
		土師器・皿	1	奈 良 時 代	
		金 環	3	古墳時代・後期	
9	今 里 遺 跡	須 恵 器・杯身	2	古墳時代・後期	49・50
		杯蓋	2	古墳時代・後期	45・47
		甕	1	古墳時代・後期	53
		甕	1	古墳時代・後期	52
		土 師 器・甕	3	古墳時代・後期	48・51
		高杯	1	古墳時代・後期	
10	隼 上 り 古 墳 群	(2号墳) 須恵器・台付壺	1	古墳時代・後期	59
		横瓶	1	古墳時代・後期	
		短頸壺	1	古墳時代・後期	54 55
		杯身	4	古墳時代・後期	
		杯蓋	4	古墳時代・後期	
		高杯	2	古墳時代・後期	6
		金 環	6	古墳時代・後期	
		刀 の つ ば	1	古墳時代・後期	57
		(3号墳) 須恵器・甕	1	古墳時代・後期	
		杯身	3	古墳時代・後期	56
		杯蓋	3	古墳時代・後期	
		高杯	2	古墳時代・後期	58
		台付壺	1	古墳時代・後期	
		甕	1	古墳時代・後期	壺
		壺	1	古墳時代・後期	

番号	遺跡名	出品遺物	点数	時代	写真番号
		土師器・甕	2	古墳時代・後期	
		金環	4	古墳時代・後期	
		黒色土器	1	平安時代	
11	千代川遺跡第9次	須恵器・杯蓋	2	古墳時代・後期	60
		杯身	3	古墳時代・後期	62・64・68
		臙	1	古墳時代・後期	
		大型杯身	1	古墳時代・後期	
		皿	1	奈良時代	
		杯A・杯B	5	奈良時代	65・66・67・69・70
		蓋	1	奈良時代	61
		墨書土器	8	奈良時代	71
		緑釉陶器	1	平安時代	
12	燈籠寺遺跡	須恵器・壺	1	奈良時代	74
		杯A	1	奈良時代	
		杯B	1	奈良時代	
		蓋	1	奈良時代	
		皿A	2	奈良時代	75
		甕	2	奈良時代	72・73
		土師器・高杯皿	1	奈良時代	
		家形埴輪	1	古墳時代・中期	77
		円筒埴輪	1	古墳時代・中期	
13	木津地区所在遺跡	軒丸瓦	3	奈良時代	80・81・82
		軒平瓦※	1	奈良時代	83
		土馬	1	奈良時代	
		瓦器・椀	1	奈良時代	
		鬼瓦	1	奈良時代	85
		須恵器・ミニチュア壺	1	奈良時代	
14	長岡京跡右京第165次	須恵器・蓋	1	長岡京時代	
		杯A	1	長岡京時代	
		杯B	1	長岡京時代	107
		皿A	1	長岡京時代	
		壺	1	長岡京時代	

番号	遺 跡 名	出 品 遺 物	点数	時 代	写真番号
		土師器・椀A	2	長岡京時代	101・103
		皿A・皿C	各2	長岡京時代	105・106
		杯A	1	長岡京時代	
		甕	1	長岡京時代	109
15	長岡京跡左京第118次	須恵器・杯A	2	長岡京時代	
		杯B	5	長岡京時代	115
		壺A	1	長岡京時代	
		壺G	2	長岡京時代	
		壺L	3	長岡京時代	
		高杯	1	長岡京時代	
		平瓶	1	長岡京時代	
		甕	1	長岡京時代	
		蓋	2	長岡京時代	113
		皿A	1	長岡京時代	
		皿B	1	長岡京時代	
		土師器・蓋	1	長岡京時代	111
		杯A	2	長岡京時代	
		杯B	1	長岡京時代	
		高杯	1	長岡京時代	
		椀A	4	長岡京時代	112
		皿A	2	長岡京時代	
		皿C	2	長岡京時代	
		甕	1	長岡京時代	
		小形椀	1	長岡京時代	
		墨書土器	8	長岡京時代	
		木印	1	長岡京時代	92
		錢貨	4	長岡京時代	93
		ミニチュア土器・竈	1	長岡京時代	
		甕	1	長岡京時代	
		帶金具(丸柄)	1	長岡京時代	
		土馬	1	長岡京時代	89
		櫛	1	長岡京時代	88
		軒丸瓦	1	長岡京時代	98

番号	遺 跡 名	出 品 遺 物	点数	時 代	写真番号
		軒 平 瓦	2	長岡京時代	
16	長岡京跡左京第119次	須恵器・蓋	2	長岡京時代	102
		杯A	1	長岡京時代	104
		杯B	1	長岡京時代	
		壺L	2	長岡京時代	108
		平瓶	1	長岡京時代	121
		鉢	1	長岡京時代	119
		壺	1	長岡京時代	
		皿A	1	長岡京時代	
		皿B	1	長岡京時代	114
		土師器・杯A・杯B	1	長岡京時代	117・118
		碗A	1	長岡京時代	
		碗C	1	長岡京時代	
		皿	1	長岡京時代	
		木 簡	1	長岡京時代	96
		墨書土器	5	長岡京時代	90
		軒丸瓦	1	長岡京時代	
		軒平瓦	2	長岡京時代	100・110
		刻印瓦	1	長岡京時代	
		鉞尾	1	長岡京時代	
17	平安京跡	須恵器・杯A	1	平安時代	132
		杯B (墨書「田村」)	1	平安時代	133
		蓋	3	平安時代	
		土師器・碗A	3	平安時代	127・129・130
		杯A	1	平安時代	128
		皿A	2	平安時代	125・126
		蓋	3	平安時代	122・123・124
		甕	2	平安時代	131
		軒平瓦	1	平安時代	
18	篠窯跡群	(西長尾A地区作業場跡) 土師器・甕	2	平安時代	138
		須恵器・杯A	2	平安時代	
		杯B	5	平安時代	136

番号	遺 跡 名	出 品 遺 物	点数	時 代	写真番号
		蓋	5	平 安 時 代	134
		皿A	1	平 安 時 代	135
		皿B	1	平 安 時 代	
		蓋	2	平 安 時 代	
		瓶	3	平 安 時 代	139・140
		壺	1	平 安 時 代	137
		(芦原1号窯) 平瓶	1	平 安 時 代	
		三耳壺	1	平 安 時 代	
19	隼 上 り 遺 跡	青 磁 碗	2	鎌 倉 時 代	141・143
		燈 明 皿	1	鎌 倉 時 代	142
20	宮 津 城 跡	近世陶器・皿	1	江 戸 時 代	
		古 錢	1	江 戸 時 代	
		巴文軒丸瓦	3	江 戸 時 代	
		硯	1	江 戸 時 代	
20	件		365点		

以上、(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター出品。

※ この軒平瓦は梅谷瓦窯跡で表採した。

杯A・杯Bなどのアルファベット呼称による分類は、奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部が行っている分類に大略準拠したが、一部それによらないところもある。

番号	遺 跡 名	出 品 遺 物	点数	時 代	写真番号
1	物集女車塚古墳	須恵器・杯身	1	古墳時代・後期	148
		杯蓋	2	古墳時代・後期	148
		高杯	3	古墳時代・後期	148
		壺	3	古墳時代・後期	148
		甕	1	古墳時代・後期	148
		土師器・壺	1	古墳時代・後期	148
		金銅製冠片	1組	古墳時代・後期	149
		ガラス小玉	4連	古墳時代・後期	150
		銀製空玉	1	古墳時代・後期	
		銀製耳環	1	古墳時代・後期	
		棗玉	1	古墳時代・後期	
		蜻蛉玉	1連	古墳時代・後期	
		馬具・轡	2	古墳時代・後期	151
		杏葉	3	古墳時代・後期	153
		雲珠	2	古墳時代・後期	
		辻金具	1	古墳時代・後期	
		礎金具	1組	古墳時代・後期	
		鞍	2	古墳時代・後期	
		馬鐸	1	古墳時代・後期	153
		鉄釵	1	古墳時代・後期	
		鉄製石突	1	古墳時代・後期	
鉄製直刀	1	古墳時代・後期			
鉄鏃	1	古墳時代・後期			
2	鴨田遺跡	刀形木製品	1	古墳時代	154
		土師器・甕	1	古墳時代・中期	158
		台付鉢	1	古墳時代・後期	156
		須恵器・杯身	2	古墳時代・後期	155
		杯蓋	1	古墳時代・後期	155
		管玉	1	古墳時代・後期	
		ガラス小玉	1	古墳時代・後期	
3	長岡京跡左京第106次	墨書人面土器	1	長岡京時代	162
		墨書土器	1	長岡京時代	161
		銅鈴	1	長岡京時代	164

番号	遺 跡 名	出 品 遺 物	点数	時 代	写真番号
		漆 器・鉢	1	長岡京時代	165
		籠	1	長岡京時代	160
		木 簡	1	長岡京時代	159
4	長岡京跡左京第120次	軒平瓦(重画文)	1	長岡京時代	170
		墨 書 土 器	4	長岡京時代	169・171
		鉄 斧	1	長岡京時代	168
		銅 金 具	2	長岡京時代	167
		錢 貨	4	長岡京時代	166
		木 簡	2	長岡京時代	173・174
4	件		64点		

以上，向日市教育委員会出品。

考 古 展

第4回「小さな展覧会」

—昭和59年度発掘調査の成果から—

昭和60年8月20日（火）～9月1日（日）

発 行 （財）京都府埋蔵文化財調査研究
センター

〒617 向日市寺戸町南垣内40番の3
☎（075）933-3877（代）

印 刷 中 西 印 刷 株 式 会 社
代表者 中 西 亮

〒602 京都市上京区下立売通小川東入
☎（075）441-3155（代）



主 催 財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター
協 賛 向日市文化資料館
後 援 京 都 府 教 育 委 員 会

1985・8・20～9・1